

平成26年度 文部科学省委託事業 発達障害理解推進拠点事業

発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための

# 校内研修プログラム

～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～



北海道教育委員会

# はじめに

我が国においては、「障害者の権利に関する条約」を踏まえ、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える「共生社会」を目指し、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みである「インクルーシブ教育システム」の理念のもと、特別支援教育を推進していく必要があります。

「インクルーシブ教育システム」においては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様な柔軟な仕組みを整備することが重要であり、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておく必要があります。

とりわけ、通常の学級においては、発達障がいのある子どもやその可能性のある子どもに対し、必要な教育的支援を行っていくことが大切です。

そこで、北海道教育委員会では、道内すべての教員が、通常の学級における発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得することができるよう、平成26年度から森町、美唄市、湧別町の計3地域8校をモデル校として、プール学院大学の松久眞実准教授の専門的な見地からの御助言を踏まえ、「校内研修プログラム」の作成に取り組みました。

本プログラムの特徴は、

- ・各学校の実態に応じて活用できるよう、複数の研修計画モデルを提示したこと
- ・研修メニューとしては、「発達障がいの特性の理解のための疑似体験」や、「個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の演習」、「発達障がいのある子への配慮を含めた学級づくりや授業づくりに関する演習」等を例示したこと
- ・各学校が容易に研修を実施することができるよう、それぞれの研修内容ごとに書き込み式の「研修シート（試案）」を掲載したこと

などです。

子ども一人一人がより一層安心して学校生活を過ごし、可能性を最大限伸ばしていくことができるよう、各学校におきまして本プログラムを校内研修に明確に位置付け、積極的に研修を進めることを期待します。

平成27年3月

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課長

佐藤和彦

発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための

# 校内研修プログラム

～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～

## 目 次

|   |                              |   |    |
|---|------------------------------|---|----|
| 1 | 校内研修プログラム                    | P | 1  |
| 2 | 校内研修プログラムの解説                 | P | 2  |
| 3 | 校内研修プログラムを活用したP D C Aサイクルの取組 | P | 3  |
| 4 | 校内研修プログラムの年間の活用例             | P | 4  |
| 5 | 研修シート(試案)                    |   |    |
|   | ○ 幼稚園                        | P | 5  |
|   | ○ 小学校                        | P | 18 |
|   | ○ 中学校                        | P | 31 |
|   | ○ 高等学校                       | P | 44 |
|   | ○ 共 通                        | P | 57 |
| 6 | 参考                           | P | 62 |
|   | ◇ 研修シート(試案)の活用例              | P | 63 |
|   | ◇ 個別の指導計画とは                  | P | 72 |
|   | ◇ 個別の教育支援計画とは                | P | 73 |
|   | ◇ I C Tの活用例                  | P | 75 |
|   | ◇ 講演の概要                      | P | 77 |
|   | ◇ 先生方へのメッセージ                 | P | 79 |
|   | ◇ プログラムの作成への御協力              | P | 81 |

※「校内研修プログラム」は、北海道立特別支援教育センターのWebページ  
(<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>) 上に掲載します。

# 発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための 校内研修プログラム～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～

| 研修の項目                                                                             | 研修のねらい                                                        | 研修の内容                                      | 研修の形態の例                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| これまでの各種調査結果等で明確になった課題から、「研修の項目」「研修のねらい」を設定しています。                                  |                                                               | 「研修の項目」「研修のねらい」に基づいて、「研修の内容」を設定しています。      | 教職員全員で実施する「全体研修」のほか、校内委員会や学級経営等の交流会としての実施、職員会議終了後や、学年・ブロック等で短い時間で実施する「ミニ研修」などが考えられます。 |
| Ⅰ 発達障がいの特性の理解や実態把握、支援方法の検討                                                        | ◇発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。                   | Ⅰ－１ 発達障がいの特性の理解                            | ○ミニ研修、校内委員会（疑似体験）<br>○全体研修（疑似体験）（講師を招聘した講義や演習）                                        |
|                                                                                   | ◇実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。                                 | Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討                           | ○ミニ研修、校内委員会（実態把握や支援策の検討）<br>○全体研修（講師を招聘した心理検査の講義等）                                    |
| Ⅱ 個別の指導計画や個別の教育支援計画                                                               | ◇個別の指導計画の一部を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。                     | Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成                             | ○ミニ研修、校内委員会（事例に基づいた書き方の演習）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                     |
|                                                                                   | ◇個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。                    | Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成                           | ○ミニ研修、校内委員会（保護者への相談の演習）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                        |
| Ⅲ 環境づくり<br>※ここでの「学級づくり」とは、学級集団の形成に向けた取組のことをさしており、「授業づくり」とは、授業の準備や授業の実際のことをさしています。 | ◇通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。 | Ⅲ－１ 学級づくり<br>① 指導や支援 ② 教師の言葉がけ<br>③ 障がいの理解 | ○ミニ研修、校内委員会、生徒指導交流会（交流、演習）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                     |
|                                                                                   | ◇通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていることを整理する。          | Ⅲ－２ 授業づくり                                  | ○ミニ研修（ビデオ研修、指導案検討や模擬授業、授業研究）<br>○全体研修（ビデオ研修、指導案検討や模擬授業、授業研究）                          |
|                                                                                   | ◇学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。                        | Ⅲ－３ 校内の連携                                  | ○ミニ研修（学年やブロックによる検討）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                            |
| Ⅳ 個別の指導や教育支援の実践                                                                   | ◇個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。                             | Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用                             | ○ミニ研修、校内委員会（学年やブロックによる検討）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                      |
|                                                                                   | ◇個別の教育支援計画を活用した次の校種（進路先）への引継ぎの仕方について考える。                      | Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用                           | ○ミニ研修、校内委員会（学年やブロックによる検討）<br>○全体研修（講師を招聘した講義や演習）                                      |
| Ⅴ 参考                                                                              | ◇知りたい内容について、参考資料を活用し、研修を深める。                                  | V－１ 参考資料の活用                                | ○ミニ研修（参考資料や参考文献の読み合わせ）（研修成果の検証）<br>○全体研修（参考資料や参考文献の読み合わせ）（研修成果の検証）                    |
|                                                                                   |                                                               | V－２ 研修成果の検証                                |                                                                                       |

- 研修内容ごとに、「研修シート(試案)」がありますので御活用ください。
- 本プログラムは、「発達障がいのある子ども」だけでなく、学校として特別な教育的支援が必要と判断した子どもへの指導や支援の充実にも活用できるものです。
- 道内のすべての教員が、支援が必要な子どもの困難さの背景を読み取り、保護者の心情に寄り添いながら、指導や支援の質を高めていけることを願っています。

# 校内研修プログラムの解説

## ★ 校内研修プログラム開発の経緯

北海道教育委員会は、平成25年度及び26年度の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」結果を踏まえ、各学校が発達障がいの特性に応じた指導の在り方に関する校内研修を進める際の参考として、研修内容を示すこととしました。

そこで、平成26年度から美幌市、森町、湧別町の計8校をモデル校とする「発達障がい支援モデル事業」において校内研修プログラムを開発し、道内の各学校に普及することとしました。

## ★ 校内研修プログラムの配布先

本プログラムは、札幌市を除く道内の公立幼稚園、小・中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に配布します。また、札幌市や私立学校、保育所等に情報提供を行うとともに、北海道立特別支援教育センターのWebページ(<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>)上に全ページを掲載します。

## ★ 研修形態の工夫

ここでいう「校内研修」とは、全員が参加する形態のほかに、

- ・職員会議終了後や、学年・ブロック等で行う15分程度のミニ研修
  - ・校内委員会
  - ・生徒指導や学級経営の交流会
- なども含めてとらえています。

| 研修の項目                      | 研修のねらい                                    | 研修の内容            | 研修の形態の例                                            |
|----------------------------|-------------------------------------------|------------------|----------------------------------------------------|
| Ⅰ 発達障がいの特性の理解や実態把握、支援方法の検討 | ◇発達障がいの子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。 | Ⅰ－１ 発達障がいの特性の理解  | ○ミニ研修、校内委員会（疑似体験）<br>○全体研修（疑似体験）（講師を招聘した講義や演習）     |
|                            | ◇実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。             | Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討 | ○ミニ研修、校内委員会（実態把握や支援策の検討）<br>○全体研修（講師を招聘した心理検査の講義等） |

## ★ 校内研修プログラムの活用

- 本プログラムは、学校として一貫した指導や支援の在り方を追究していくため、学校の課題や教職員の状況に応じて、学校として自主的・主体的に活用できるものです。例えば、
  - ・学校の実態に応じて、研修内容を選択します。
  - ・取り上げる回数や取り上げ方は、学校の実態に応じて決めます。
- 短い時間で、負担感の少ない研修となるよう工夫します。
- 各教育局特別支援教育スーパーバイザーをはじめ、特別支援教育センター所員や特別支援学校教諭を講師として招聘することも考えられます。
- 近隣校との合同研修として行うこともできます。
- 実施した研修の成果を検証し、次年度の研修につなげます。

## ★ 研修内容ごとの「研修シート(試案)」の活用

- 研修内容ごとに示した「研修シート(試案)」を活用することができます。その際、
    - ・そのまま使う。
    - ・学校独自の「研修シート」を作成する。
    - ・改善を図りながら、繰り返し使う。
- などの活用も考えられます。

# 校内研修プログラムを活用したPDCAサイクルの取組

学校の実態に応じて、どこからでも取り組めます！

**P**lan 計画

■学校の現状を捉え、研修計画を立てよう！

**D**o 実施

■目の前の子どもに、よりよく対応するために、研修をしよう！

**C**heck 評価

■教職員の意識を共有し、取り組んだ成果を確認しよう！

**A**ction 改善

■成果と課題を踏まえ、新たな企画を検討しよう！

## Planの例

例【学校の実態に基づいて、立てた計画の例】

|     |                                                                                 |                                                                               |                              |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1   | 本校の現状                                                                           |                                                                               |                              |
|     | 学校の現状のチェック項目例                                                                   |                                                                               | 該当する欄に○                      |
| ①   | 通常の学級に特別な教育的支援を必要とする子が、数名在籍しており、対応に苦慮している。                                      |                                                                               | ○                            |
| ②   | 発達障がいのある子への対応について研修したいという声がある。                                                  |                                                                               |                              |
| ③   | 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成や活用について研修したいという声がある。                                        |                                                                               | ○                            |
| ④   | 支援が必要な子どもへの対応や学級経営、授業の研修をしたいという声がある。                                            |                                                                               | ○                            |
| ⑤   | 発達障がいのある子どもへの対応について、一定の知識や技能を身に付けている教員は多いが、さらに校内体制の充実にも努める必要がある。                |                                                                               |                              |
| ⑥   | 校内体制は充実しているが、保護者との連携や校種間の連携の充実にも努める必要がある。                                       |                                                                               |                              |
| 2   | 取組の目標                                                                           |                                                                               |                              |
|     | 教職員一人一人が、特別な教育的支援が必要な子どもへの対応に関する「個別の指導計画の作成」「学級づくり」「授業づくり」の基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 |                                                                               |                              |
| 3   | 研修の計画                                                                           |                                                                               |                              |
|     | 校内研修                                                                            | 校内委員会                                                                         | 学級経営交流会                      |
| 4月  | 今年度の研修計画の確認                                                                     |                                                                               |                              |
| 5月  |                                                                                 | 校内研修プログラムの活用①<br>教育局特別支援教育スーパーバイザーを招聘し、個別の指導計画を作成・実態把握、支援方法の検討<br>・個別の指導計画の作成 |                              |
| 6月  | 授業研究に向けての確認                                                                     |                                                                               |                              |
| 7月  | 第1回授業研究                                                                         | 校内研修プログラムの活用②<br>パートナー・ティーチャー派遣事業で特別支援学校教諭を招聘し、支援の在り方を検討<br>・個別の指導計画の活用       |                              |
| 8月  |                                                                                 |                                                                               | 校内研修プログラムの活用③<br>・教師の言葉がけの交流 |
| 9月  | 第2回授業研究                                                                         |                                                                               |                              |
| 10月 | 校内研修プログラムの活用④<br>・必要な配慮を位置付けた授業研究                                               |                                                                               |                              |

## Doの留意点

- 研修シート(試案)を活用し、準備や実施にできるだけ負担がかからないように留意します。
- 研修実施後、参加した教職員が成果を実感できるよう、研修の「振り返り」を大切にします。

## Checkの例

例【教職員へのアンケート項目の例】

※ 教職員に感想を聞く、アンケートをとる(項目は学校で設定)(○をつける)

|   | 発達障がいのある子どもへの指導や支援について | 十分理解している | 少し理解している | あまり理解していない | 全く理解していない |
|---|------------------------|----------|----------|------------|-----------|
| 1 | 発達障がいの特性の理解            |          |          |            |           |
| 2 | 実態把握、支援方法の検討           |          |          |            |           |
| 3 | 個別の指導計画の作成             |          |          |            |           |
| 4 | 個別の教育支援計画の作成           |          |          |            |           |
| 5 | 発達障がいのある子への配慮を含めた学級づくり |          |          |            |           |
|   | ① 指導や支援                |          |          |            |           |
|   | ② 教師の言葉がけ              |          |          |            |           |
|   | ③ 障がいの理解               |          |          |            |           |
| 6 | 発達障がいのある子への配慮を含めた授業づくり |          |          |            |           |
| 7 | 校内(園内)の連携              |          |          |            |           |
| 8 | 個別の指導計画の活用             |          |          |            |           |
| 9 | 個別の教育支援計画の活用           |          |          |            |           |

例【子どもへのアンケート項目の例】

※ 子どもに感想を聞く、アンケートをとる(項目等は学校で設定)(○をつける)

|   | 学校生活で感じていることについて            | そう思う | どちらかといえばそう思う | そう思わない |
|---|-----------------------------|------|--------------|--------|
| 1 | 学級は、みんなで協力していると思う。          |      |              |        |
| 2 | 先生は、あなたのよいところをみとめてくれていると思う。 |      |              |        |
| 3 | 授業や先生の説明は、わかりやすいと思う         |      |              |        |

## Actionの留意点

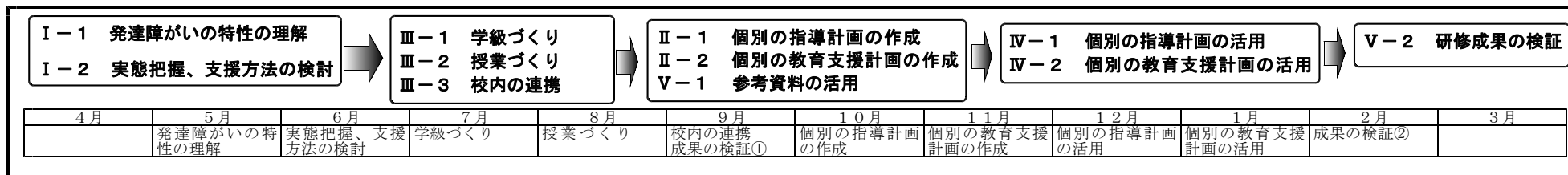
- 教職員ががんばっていることや工夫していることを大事に、それを成果として位置付けます。
- 改善や充実が必要となることは、できるだけ絞り込み、課題として位置付けます。
- 課題を解決するための研修内容を選択します。
- 研修方法や研修回数を検討します。
- できるだけ無理のない研修計画とします。

学校の実態に応じて

1年間を見通したPDCAサイクルで本プログラムを活用することにより研修効果を一層高めることができます！

# 校内研修プログラムの年間の活用例

## ■ A校～全体をしっかりと学ぶことに重点を置く学校 → 研修内容のすべてを校内研修として取り扱う



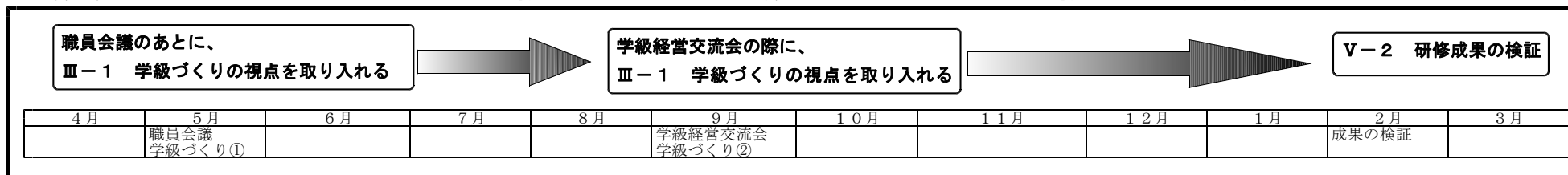
## ■ B校～個別の支援に重点を置く学校 → 研修内容のうち、個別の支援の内容を取り扱う



## ■ C校～発達障がいのある子への配慮を含めた授業づくりに重点を置く学校 → 研修内容のうち、授業づくりの内容を取り入れる



## ■ D校～発達障がいのある子への配慮を含めた学級づくりに重点を置く学校 → 研修内容のうち、学級づくりの内容を取り入れる



# 「校内研修プログラム」 研修シート（試案） 幼稚園

# 研修シート(試案)

## I - 1 発達障がいの特徴の理解

- ◎ ねらい  
発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

### 1 疑似体験（教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します）

#### 演習1

※演習例

- ① 教師役が次のような長い文章を早口で説明します。

明日は公園に出かけます。朝は8時に幼稚園に集まってください。

幼稚園からバスに乗って公園に行きます。

持ち物は、お弁当と水筒、ハンカチとちり紙、ゴミぶくろです。

気を付けることは、朝、お家でトイレに行っておくこと、忘れ物をしないで来ることです。

- ② このあと、教師役が子ども役に質問をします。

- ・明日はどこに出かけますか。
- ・朝は何時に幼稚園に集まりますか。
- ・持ち物は、何ですか。
- ・気を付けることは何でしたか。 など

#### 演習2

※演習例

準備：パソコンとプロジェクター、4×4のマス目の6か所に異なる絵（60ページ参照）

教師役が「4×4のマス目の6か所に異なる絵」を5秒間程度、スクリーンで見せます。

スライドを消し、「覚えたものを手元の紙に書きましょう。時間は1分です」と指示します。

「あと、何秒です」「早く書いてください」など、途中で急がせる声がけをします。

答え合わせをした後、位置と物が合っている数を確認します。

### 2 振り返り（発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと）

## I - 2 実態把握、支援方法の検討

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

## 1 実態把握 (この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握を行う)

| 内 容                      |  | 該当する場合○ |
|--------------------------|--|---------|
| 長所                       |  |         |
| がんばろうとしていること             |  |         |
| 言語発達が遅い                  |  |         |
| 絵本や紙芝居を座って静かに聞けることが苦手である |  |         |
| 数の理解が進まない                |  |         |
| 相手の気持ちに気付かないことがある        |  |         |
| 集団活動が苦手である               |  |         |
| 人より、物に興味関心が強い            |  |         |
| 衝動性が見られる                 |  |         |
| 初めてのことや、初めての環境に戸惑うことが多い  |  |         |

## 2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

### 3 振り返り（実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと）

WPV - [REDACTED]

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

- ◎ ねらい  
個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

氏 名 \_\_\_\_\_

| <b>子どものよさ(○)</b><br><b>活動や生活上、困難なこと(△)</b>                                                                                              |                              | <b>長期目標</b><br><b>(１年後を目標に)</b>                                               |                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <b>※記入例</b><br>○ 自分の気持ちを相手に伝えることができる。<br>○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。<br>△ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。<br>△ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。 |                              | <b>※記入例</b><br>・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。<br>・園の生活のルールを守って、行動することができる。           |                                           |
| <b>短期目標</b><br><b>(１～３か月後を目標に)</b>                                                                                                      | <b>場 面</b>                   | <b>指導や支援の内容、方法</b>                                                            | <b>評 価</b>                                |
| <b>※記入例</b><br>・集中できる時間が長くなるようにする。                                                                                                      | <b>※記入例</b><br>・保育中          | <b>※記入例</b><br>・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。<br>・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。 | <b>※記入例</b><br>・３０分以上は座っていられるようになってきている。  |
| <b>※記入例</b><br>・持ち物を自分で片付けることができる。                                                                                                      | <b>※記入例</b><br>・保育中<br>・生活全般 | <b>※記入例</b><br>・持ち物の片付け場所を決める。                                                | <b>※記入例</b><br>・少しずつ片付けることができるようになってきている。 |

## ２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

### ◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

### 1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

#### 【場面設定の例】

- ・絵本の読み聞かせなどの途中、立ち歩いてしまう子どもについて、当該の子どもの保護者と2回目の話し合いの場面
- ・1回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画（それに代わるカードやノートなどでもよい）を作成することについて、同意を得ようとする場面

#### 【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

### 2 振り返り（場面を演示して気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ① 指導や支援

◎ ねらい

各学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 実践の検討

| 目指す取組                         | 事 例                                                                                                                                                             | 各項目ごとの学級づくりに関する実践交流 |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| ※記入例<br>友だちの思いに気付けるような取組      | ※記入例<br>子どもたちの優しい言葉を増やすために、子どもたちが優しい言葉を使う度に、その言葉を掲示したり、「優しい言葉の木」を掲示し、シールを貼っています。                                                                                |                     |
| ※記入例<br>よい行動のモデルを示す取組         | ※記入例<br>「子どもたちがあたたかい言葉を使っていた」「誰かがこぼした水を拭いてくれた」など、学級で嬉しい出来事やよい行動が見られたとき、担任が理由を説明しながら子どもに伝えています。                                                                  |                     |
| ※記入例<br>教師の話に耳を傾けることができるような取組 | ※記入例<br>どの子どもも静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間を指示しています。発達障がいのある子どもたちは、声の大きさの調節が苦手で、いきなり場にそぐわない声を出してしまうことがあるので、学級全員に対し、ひそひそ声の練習をしてから取り組んでいます。組んでいます。                  |                     |
| ※記入例<br>保護者との信頼関係づくりの取組       | ※記入例<br>４月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。 |                     |

#### ２ 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

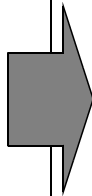
## Ⅲ－１ 学級づくり

### ② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

**１ 実践の検討**（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、子どもへの教師の言葉がけの在り方を整理する。）

|    | 「言葉がけ」                                                                              | 「好意に満ちた言葉がけ」                                                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 例１ | 「A君、走らないでね！」                                                                        | 「A君、今日は歩こうね。」                                                  |
| 例２ | 「静かにしなさい！」                                                                          | 「Bのグループは静かに待ってるね。」                                             |
| 例３ | 「１人ぼっちの友だちを仲間に入れて一緒に遊んだんだね。えらいね。」                                                   | 「１人ぼっちの友だちを仲間に入れて一緒に遊んでくれたんだね。〇〇さん、すごく嬉しそうだったよ。先生も嬉しいよ。ありがとう！」 |
|    |  |                                                                |

**２ 振り返り**（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

|  |
|--|
|  |
|--|

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ③ 障がいの理解

◎ ねらい

発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 子どもたちに障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                                        | 取組事例                                                                               | 各項目ごとの取組交流 |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験 | ※記入例<br>○ 気が散りやすく、刺激に反応してしまうことの体験<br>○ 友達を遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験           |            |
| ※記入例<br>一人一人のよさの理解                        | ※記入例<br>○ 子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定<br>○ 子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定 |            |

#### ２ 保護者に障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                 | 取組事例                                                                                                             | 各項目ごとの取組交流 |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>一人一人のよさの啓発 | ※記入例<br>○ 保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認め合う学級づくりを行うことについての説明<br>○ お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定<br>○ 子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定 |            |

別紙の「子どもたちへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、子どもたちや保護者に説明し理解を得ておくことも考えられます。

#### ３ 振り返り（発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

## 保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 保護者の皆様へ

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていきけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

## 子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 子どもたちへ

ひとは、ひとりひとりちがいます。ひとりとして まったくおなじ人はいません。たとえば、「あしがはやい、おそい」「すきなたべものがちがう」などです。

ですから、みんなにも、「ことばで うまくはなせない」「みじたくが うまくできない」など、せんせいのたすけが ひつようなことがあるかもしれせん。

せんせいは、にがてなことには、たとえば、「あそびのなかで、いっしょにかんがえる」「そばについて、ゆっくりくりかえし はなしをする」など、たすけてあげたいと かんがえています。みんなの よいところが のびていくよう、ひとりひとりにあわせて おてつだいをします。

ですから、みなさんも、「ひとりひとりのよさや ちがいをたいせつにすること」に きょうりよくしてください。また、このことについて、おはなししたいことがあれば、いつでも せんせいにつたえてください。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－２ 保育の展開

◎ ねらい

発達障がいのある子どもへの配慮について考え、保育で心がけていくことを整理する。

※ 配慮の例で、既に行っているものは、□を塗りつぶしてみる。

※ 配慮の例で、その他に配慮していることや配慮が必要と考えたことを表の中に付け加える。

※ 今後、保育の準備や保育を行う中で、心がけていくことについて整理する。

### １ 保育中の配慮

| 時刻    | 幼児の活動                                                      | 発達障がいのある子どもに対する配慮の例                                                                                                         |
|-------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8:50  | ○ 登園する<br>・ 道具の後片付けをする                                     | <input type="checkbox"/> 所持品の置き場所や始末の手順などを、写真や絵カード等を用意し、自分で確認できるようにする。<br><input type="checkbox"/> 一日の生活の流れをスケジュール表などで知らせる。 |
|       | ○ 自分から環境にかかわって遊ぶ<br>・ 好きな遊びを見付けて遊ぶ<br>・ 先生や友だちと一緒に遊ぶ<br>など | <input type="checkbox"/> 落ち着いて遊びに取り組めるように刺激の少ない場所を用意する。<br><input type="checkbox"/> 遊びに必要な遊具や用具の場所を写真や絵カードで分かりやすく表示する。      |
| 11:40 | ○ 片付けをする                                                   | <input type="checkbox"/> スモールステップの取組を支援する。<br><input type="checkbox"/> 全体への指示の前に、「時計の針が〇〇になったら片付けます」と個別に伝えるようにする。           |
| 12:00 | ○ お弁当を食べる                                                  | <input type="checkbox"/> お弁当の準備や片付けの手順を絵カードで示し、自分で確認して行動できるようにする。                                                           |
| 13:40 | ○ 降園する                                                     | <input type="checkbox"/> 降園準備ができたなら絵本を読むなど、楽しい活動を知らせ、気持ちが切り替えられるようにする。                                                      |

### ２ 振り返り（今後、保育で心がけること）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－３ 園内の連携

◎ ねらい

園全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

### １ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、園全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

|      | 担任 | 特別支援教育支援員 | 園長 | 主任 | 担任以外の先生 |  |  |
|------|----|-----------|----|----|---------|--|--|
| 登園時  |    |           |    |    |         |  |  |
| 自由遊び |    |           |    |    |         |  |  |
| 外遊び  |    |           |    |    |         |  |  |
| お弁当  |    |           |    |    |         |  |  |
| 片付け  |    |           |    |    |         |  |  |
| 降園時  |    |           |    |    |         |  |  |

記入例

|      | 担任               | 特別支援教育支援員          | 園長               | 主任              | 担任以外の先生           |  |  |
|------|------------------|--------------------|------------------|-----------------|-------------------|--|--|
| 登園時  | 道具の後片付けを支援する     | 玄関から教室までの移動の様子を見守る | 玄関で保護者に体調などを確認する |                 |                   |  |  |
| 自由遊び | 必要に応じて、支援する      | 必要に応じて、支援する        |                  |                 | 他の教室に入った際、様子を確認する |  |  |
| 外遊び  | 必要に応じて、支援する      | 必要に応じて、支援する        |                  |                 | 担任が離れている際、様子を見守る  |  |  |
| お弁当  | 一人一人の安全な食事に留意する  | 弁当の準備や片付けなどを支援する   |                  |                 |                   |  |  |
| 片付け  | 必要に応じて、支援する      | 支援の結果をメモで担任に伝える    |                  | 必要に応じ、降園準備を支援する |                   |  |  |
| 降園時  | 玄関で保護者に今日の様子を伝える |                    |                  |                 |                   |  |  |

### ２ 振り返り（園全体で支援を行うために心がけること）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい  
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

### １ 個別の指導計画に基づいた協議

#### 【協議の観点の例】

- 評価
  
  
  
  
  
- 子どものよさのとらえ直し
  
  
  
  
  
- 活動や生活を行っていく上で困難なことの再確認
  
  
  
  
  
- 長期目標や短期目標の妥当性
  
  
  
  
  
- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

### ２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

### １ 個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・ 幼稚園のコーディネーターが、小学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

### ２ 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

**「校内研修プログラム」  
研修シート（試案）  
小学校**

# 研修シート(試案)

## I - 1 発達障がいの特徴の理解

◎ ねらい

発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

### 1 疑似体験 (教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します)

#### 演習1

※演習例

① 教師役が次のような長い文章を早口に口頭で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。  
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから円15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。  
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が子ども役に質問をします。

- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
- ・地下鉄はどこで降りますか。
- ・何番線のバスに乗りますか。
- ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

#### 演習2

※演習例

準備：パソコンとプロジェクター、4×4のマスの6か所に異なる絵（60ページ参照）

教師役が「4×4のマスの6か所に異なる絵」を5秒間程度、スクリーンで見せます。  
スライドを消し、「覚えたものを手元の紙に書きましょう。時間は1分です」と指示します。  
「あと、何秒です」「早く書いてください」など、途中で急がせる声がけをします。  
答え合わせをした後、位置と物が合っている数を確認します。

### 2 振り返り (発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと)

# 研修シート(試案)

## I - 2 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

### 1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

| 項目           | 内 容                                                 | 該当する場合は○ |
|--------------|-----------------------------------------------------|----------|
| 長所           |                                                     |          |
| がんばろうとしていること |                                                     |          |
| 聞く           | 全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい                             |          |
| 話す           | 話しているうちに内容がそれることが多い                                 |          |
| 読む           | 文字は読めても単語や文として読むことが難しい                              |          |
| 書く           | 板書を書き写すのに時間がかかることが多い<br>細かい部分を書き間違えたりすることが多い        |          |
| 計算する         | 計算するのに時間がかかることが多い<br>答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい |          |
| 推論する         | 図形を描くことが難しい<br>文章題を解くことが難しい                         |          |
| 注意集中         | 気が散ることが多い<br>最後まで課題に取り組むことが難しい                      |          |
| 多動性          | じっと座っていられずに立ち歩くことが多い                                |          |
| 衝動性          | 質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い                              |          |
| 人とかかわり       | 相手の感情や立場を理解することが難しい                                 |          |
| コミュニケーション    | 自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい                     |          |
| 興味の範囲        | 興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い                       |          |
| 特異な行動        | 身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ                             |          |

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

### 2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

### 3 振り返り (実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと)

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

- ◎ ねらい  
個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学 年 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

| <b>子どものよさ(○)</b><br><b>学習や生活上、困難なこと(△)</b>                                                                                        |                              | <b>長期目標</b><br><b>(１年後を目標に)</b>                                               |                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <b>※記入例</b><br>○ 算数の計算問題が速くできる。<br>○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。<br>△ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。<br>△ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。 |                              | <b>※記入例</b><br>・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。<br>・学校生活のルールを守って、行動することができる。           |                                           |
| <b>短期目標</b><br><b>(１～３か月後を目標に)</b>                                                                                                | <b>場 面</b>                   | <b>指導や支援の内容、方法</b>                                                            | <b>評 価</b>                                |
| <b>※記入例</b><br>・集中できる時間が長くなるようにする。                                                                                                | <b>※記入例</b><br>・授業中          | <b>※記入例</b><br>・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。<br>・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。 | <b>※記入例</b><br>・３０分以上は座っていられるようになってきている。  |
| <b>※記入例</b><br>・持ち物を自分で片付けることができる。                                                                                                | <b>※記入例</b><br>・授業中<br>・学校生活 | <b>※記入例</b><br>・持ち物の片付け場所を決める。                                                | <b>※記入例</b><br>・少しずつ片付けることができるようになってきている。 |

## ２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

### ◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

### 1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

#### 【場面設定の例】

- ・授業中、気が散りやすい子どもについて、当該の子どもの保護者と2回目の話し合いの場面
- ・1回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

#### 【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

### 2 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

|  |
|--|
|  |
|--|

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ① 指導や支援

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### 1 取組の交流

| 項 目                      | 事 例                                                                                                                                                             | 各項目ごとの学級づくりに関する取組交流 |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| ※記入例<br>もめごとやケンカを少なくする取組 | ※記入例<br>暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。                                                                    |                     |
| ※記入例<br>叱り方に見通しをもたせる取組   | ※記入例<br>叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、<br>・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る<br>・できることをしないときは、叱る<br>・名札を忘れたときは、少し叱る<br>など、叱る基準を4月に子どもたちに伝え、それを1年間守ります。                               |                     |
| ※記入例<br>騒がしい教室を静かにする取組   | ※記入例<br>どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。1分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。                                       |                     |
| ※記入例<br>保護者との信頼関係づくりの取組  | ※記入例<br>4月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。 |                     |

#### 2 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

|  |
|--|
|  |
|--|

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

**１ 実践の検討**（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、子どもへの教師の言葉がけの在り方を整理する。）

|    | 「言葉がけ」                                                                              | 「好意に満ちた言葉がけ」                                            |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 例１ | 「またＡ君か。誰かがけがしたら、どうするの。危ないって言ったでしょ！」                                                 | 「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」                         |
| 例２ | 「静かにしなさい！」                                                                          | 「Ｂのグループは静かに待ってるね。」                                      |
| 例３ | 「教室のごみを拾って、ごみ箱に捨てたんだね。えらいね。」                                                        | 「教室のごみを拾って、ごみ箱に捨ててくれたんだね。また、教室がきれいになって、先生、うれしいよ。ありがとう！」 |
|    |  |                                                         |

**２ 振り返り**（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

|  |
|--|
|  |
|--|

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ③ 障がいの理解

#### ◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                                        | 取組事例                                                                                                    | 各項目ごとの取組交流 |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験 | ※記入例<br>○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験<br><br>○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験<br><br>○友達を遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験 |            |
| ※記入例<br>一人一人のよさの理解                        | ※記入例<br>○子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定<br><br>○子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定                    |            |

#### ２ 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                 | 取組事例                                                                                                                 | 各項目ごとの取組交流 |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>一人一人のよさの啓発 | ※記入例<br>○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認める学級づくりを行うことについての説明<br><br>○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定<br><br>○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定 |            |

別紙の「子どもたちへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、学級の子どもたちや保護者に説明し、理解を得ておくことも考えられます。

#### ３ 振り返り（発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

## 保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 保護者の皆様へ

子どもには、それぞれよさやできることがたくさんありますが、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」「会話が一方的である」「気が散ることが多い」など、支援を必要とすることがあります。

こうしたことから、本校では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本校においても、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子のよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「分かりやすい授業づくり」や「互いの違いを認め合える学級づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていきえるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

## 子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 子どもたちへ

人は、一人一人違います。一人として全く同じ人はいません。

例えば、「足が速い、遅い」「好きな食べ物が違う」などです。

ですから、学校でも、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」と感じることもあれば、「友達と会話がうまくできない」「気が散ることが多い」など、先生の手助けが必要なことがあるかもしれません。

先生は、学習が不得意だったり、集団生活が苦手だったりすることに対しては、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、サポートしていきたいと考えています。どの子にも、よさや可能性が伸びていくよう、一人一人に応じた指導を行っていくので、一部の人への差別やえこひいきをするものではありません。

ですから、学級のみなさんも、先生が「互いのよさや違いを認め合える学級づくり」に取り組むことについて、協力してください。また、このことについて、意見や質問があれば、いつでも先生に伝えてください。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－２ 授業づくり

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

### 1 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

| 過程 | 子どもの主な学習活動                       | 発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例                                                                                                                                                                                  |
|----|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。      | ◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。<br>□ 課題を視覚的に理解できるようにする。<br>□ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。<br>□ 考え方や解き方を説明する(ＩＣＴ機器等の活用など)。<br>□ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。<br>□ 本時の学習のねらいを示す。<br>など                                            |
| 展開 | ■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。   | ◎ 集中して取り組めるよう工夫する。<br>□ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。<br>□ しやべらないで、集中して学習するよう促す。<br>□ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法(視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など)で教える。<br>□ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。<br>など |
| 終末 | ■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。 | ◎ 学んだことを理解できるよう工夫する。<br>□ 考え方や解き方をまとめる(ＩＣＴ機器等の活用など)。<br>□ 本時の学習で分かったことを確認する。<br>□ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。<br>不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。<br>※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。<br>など                           |

#### 【授業全般を通じた配慮の例】

- 教師の発言
  - ・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
  - ・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
  - ・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

### 2 振り返り

- ※ 授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－３ 校内の連携

◎ ねらい

学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

### １ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

|      | 学級担任 | 特別支援教育支援員 | 学年団 | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭 |  |  |
|------|------|-----------|-----|--------------------|------|--|--|
| 登校時  |      |           |     |                    |      |  |  |
| 授業中  |      |           |     |                    |      |  |  |
| 休み時間 |      |           |     |                    |      |  |  |
| 給食   |      |           |     |                    |      |  |  |
| 清掃   |      |           |     |                    |      |  |  |
| 下校時  |      |           |     |                    |      |  |  |

記入例

|      | 担任                  | 特別支援教育支援員          | 学年団    | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭             |  |  |
|------|---------------------|--------------------|--------|--------------------|------------------|--|--|
| 登校時  | 教室で道具の片付けを支援する      | 玄関から教室までの移動の様子を見守る |        | 各教室を巡回し、様子を確認する    |                  |  |  |
| 授業中  | 必要に応じて、支援する         | 取組のよさを付箋紙にメモしてほめる  |        |                    |                  |  |  |
| 休み時間 | 学級全体の休み時間の様子を把握する   | 必要に応じて、活動を支援する     | 様子を見守る |                    |                  |  |  |
| 給食   | 一人一人への安全な給食について留意する | 必要に応じて、支援する        |        |                    |                  |  |  |
| 清掃   | 必要に応じて、支援する         | 支援の結果をメモで担任に伝える    |        |                    | 掃除の様子を見守り、担任に伝える |  |  |
| 下校時  | 一日の取組のよさを伝える        |                    |        | 各教室を巡回し、様子を確認する    |                  |  |  |

### ２ 振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

|  |
|--|
|  |
|--|

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい  
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

### １ 個別の指導計画に基づいた協議

#### 【協議の観点の例】

- 評価
  
  
  
  
  
- 子どものよさのとらえ直し
  
  
  
  
  
- 学習や生活を行っていく上で困難なことの再確認
  
  
  
  
  
- 長期目標や短期目標の妥当性
  
  
  
  
  
- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

### ２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

### １ 個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・ 小学校のコーディネーターが、中学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

### ２ 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

**「校内研修プログラム」  
研修シート（試案）  
中学校**

# 研修シート(試案)

## I－1 発達障がいの特徴の理解

◎ ねらい

発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

### 1 疑似体験（教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します）

#### 演習1

※演習例

① 教師役が、次のような長い文章を早口で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。  
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから円15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。  
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が子ども役に質問をします。

- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
- ・地下鉄はどこで降りますか。
- ・何番線のバスに乗りますか。
- ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

#### 演習2

※演習例

準備：英文（61ページ参照）

教師役が英文（61ページ参照）をできるだけ早口で1回だけ読み聞かせます。  
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

### 2 振り返り（発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## I - 2 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

### 1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

| 項目           | 内 容                                                 | 該当する場合は○ |
|--------------|-----------------------------------------------------|----------|
| 長所           |                                                     |          |
| がんばろうとしていること |                                                     |          |
| 聞く           | 全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい                             |          |
| 話す           | 話しているうちに内容がそれることが多い                                 |          |
| 読む           | 文字は読めても単語や文として読むことが難しい                              |          |
| 書く           | 板書を書き写すのに時間がかかることが多い<br>細かい部分を書き間違えたりすることが多い        |          |
| 計算する         | 計算するのに時間がかかることが多い<br>答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい |          |
| 推論する         | 図形を描くことが難しい<br>文章題を解くことが難しい                         |          |
| 注意集中         | 気が散ることが多い<br>最後まで課題に取り組むことが難しい                      |          |
| 多動性          | じっと座っていられずに立ち歩くことが多い                                |          |
| 衝動性          | 質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い                              |          |
| 人とかかわり       | 相手の感情や立場を理解することが難しい                                 |          |
| コミュニケーション    | 自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい                     |          |
| 興味の範囲        | 興味・関心のある対象が限られ、特定のもののへのこだわりが強い                      |          |
| 特異な行動        | 身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ                             |          |

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

### 2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

### 3 振り返り (実態把握と支援方策の検討を通して、留意点として考えたこと)

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学 年 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

| <b>子どものよさ(○)</b><br><b>学習や生活上、困難なこと(△)</b>                                                                                 |                       | <b>長期目標</b><br><b>(１年後を目標に)</b>                                        |                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| ※記入例<br>○ 数学の計算問題が速くできる。<br>○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。<br>△ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。<br>△ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。 |                       | ※記入例<br>・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。<br>・学校生活のルールを守って、行動することができる。           |                                    |
| <b>短期目標</b><br><b>(１～３か月後を目標に)</b>                                                                                         | <b>場 面</b>            | <b>指導や支援の内容、方法</b>                                                     | <b>評 価</b>                         |
| ※記入例<br>・集中できる時間が長くなるようにする。                                                                                                | ※記入例<br>・授業中          | ※記入例<br>・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。<br>・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。 | ※記入例<br>・３０分以上は座っていられるようになってきている。  |
| ※記入例<br>・持ち物を自分で片付けることができる。                                                                                                | ※記入例<br>・授業中<br>・学校生活 | ※記入例<br>・持ち物の片付け場所を決める。                                                | ※記入例<br>・少しずつ片付けることができるようになってきている。 |

## ２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

### ◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

### １ 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

#### 【場面設定の例】

- ・授業中、全体への指示を聞き取って行動することが難しい子どもについて、当該の子どもの保護者と２回目の話し合いの場面
- ・１回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

#### 【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

### ２ 振り返り（場面を演示して気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ① 指導や支援

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 取組の交流

| 項 目                      | 事 例                                                                                                                                                             | 各項目ごとの学級づくりに関する取組交流 |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| ※記入例<br>もめごとやケンカを少なくする取組 | ※記入例<br>暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。                                                                    |                     |
| ※記入例<br>叱り方に見通しをもたせる取組   | ※記入例<br>叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、<br>・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る<br>・できることをしないときは、叱る<br>・名札を忘れたときは、少し叱る<br>など、叱る基準を４月に子どもたちに伝え、それを１年間守ります。                               |                     |
| ※記入例<br>騒がしい教室を静かにする取組   | ※記入例<br>どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。１分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。                                       |                     |
| ※記入例<br>保護者との信頼関係づくりの取組  | ※記入例<br>４月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。 |                     |

#### ２ 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

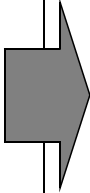
## Ⅲ－１ 学級づくり

### ② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

**１ 実践の検討**（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、子どもへの教師の言葉がけの在り方を整理する。）

|    | 「言葉がけ」                                                                              | 「好意に満ちた言葉がけ」                                                                |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 例１ | 「またＡ君か。誰かがけがしたら、どうする！危ないって言ったでしょ！何回言ったら分かるんだ！」                                      | 「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」                                             |
| 例２ | 「静かにしなさい！」                                                                          | 「Ｂのグループは静かに待ってるね。」                                                          |
| 例３ | 「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低の学級です！」                                                         | 「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で一番いいね！あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」 |
|    |  |                                                                             |

**２ 振り返り**（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ③ 障がいの理解

#### ◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                                        | 取組事例                                                                                                     | 各項目ごとの取組交流 |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験 | ※記入例<br>○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験<br><br>○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験<br><br>○友だちを遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験 |            |
| ※記入例<br>一人一人のよさの理解                        | ※記入例<br>○子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定<br><br>○子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定                     |            |

#### ２ 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                 | 取組事例                                                                                                                 | 各項目ごとの取組交流 |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※記入例<br>一人一人のよさの啓発 | ※記入例<br>○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認める学級づくりを行うことについての説明<br><br>○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定<br><br>○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定 |            |

別紙の「子どもたちへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、学級の子どもたちや保護者に説明し、理解を得ておくことも考えられます。

#### ３ 振り返り（発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

## 保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 保護者の皆様へ

子どもには、それぞれよさやできることがたくさんありますが、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」「会話が一方的である」「気が散ることが多い」など、支援を必要とする場合があります。

こうしたことから、本校では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本校においても、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子のよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「分かりやすい授業づくり」や「互いの違いを認め合える学級づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていきえるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

## 子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 子どもたちへ

人は、一人一人違います。一人として全く同じ人はいません。

例えば、「足が速い、遅い」「好きな食べ物が違う」などです。

ですから、学校でも、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」と感じることもあれば、「友達と会話がうまくできない」「気が散ることが多い」など、先生の手助けが必要なことがあるかもしれません。

先生は、学習が不得意だったり、集団生活が苦手だったりすることに対しては、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、サポートしていきたいと考えています。どの子にも、よさや可能性が伸びていくよう、一人一人に応じた指導を行っていくので、一部の人への差別やえこひいきをするものではありません。

ですから、学級のみなさんも、先生が「互いのよさや違いを認め合える学級づくり」に取り組むことについて、協力してください。また、このことについて、意見や質問があれば、いつでも先生に伝えてください。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－２ 授業づくり

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

### 1 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

| 過程 | 子どもの主な学習活動                       | 発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例                                                                                                                                                                                  |
|----|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。      | ◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。<br>□ 課題を視覚的に理解できるようにする。<br>□ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。<br>□ 考え方や解き方を説明する(ICT機器等の活用など)。<br>□ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。<br>□ 本時の学習のねらいを示す。<br>など                                            |
| 展開 | ■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。   | ◎ 集中して取り組めるよう工夫する。<br>□ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。<br>□ しやべらないで、集中して学習するよう促す。<br>□ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法(視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など)で教える。<br>□ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。<br>など |
| 終末 | ■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。 | ◎ 学んだことを理解できるように工夫する。<br>□ 考え方や解き方をまとめる(ICT機器等の活用など)。<br>□ 本時の学習で分かったことを確認する。<br>□ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。<br>※ 不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。<br>※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。<br>など                        |

#### 【授業全般を通じた配慮の例】

- 教師の発言
  - ・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
  - ・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
  - ・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

### 2 振り返り

- ※ 授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－３ 校内の連携

◎ ねらい

学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

### １ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

|      | 学級担任 | 特別支援教育支援員 | 副担任 | 教科担任 | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭 |  |
|------|------|-----------|-----|------|--------------------|------|--|
| 登校時  |      |           |     |      |                    |      |  |
| 授業中  |      |           |     |      |                    |      |  |
| 休み時間 |      |           |     |      |                    |      |  |
| 給食   |      |           |     |      |                    |      |  |
| 清掃   |      |           |     |      |                    |      |  |
| 下校時  |      |           |     |      |                    |      |  |

記入例

|      | 担任                  | 特別支援教育支援員          | 副担任               | 教科担任       | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭             |  |
|------|---------------------|--------------------|-------------------|------------|--------------------|------------------|--|
| 登校時  | 教室で子どもを出迎え、体調等を確認する | 玄関から教室までの移動の様子を見守る |                   |            | 各教室を巡回し、様子を確かめる    |                  |  |
| 授業中  |                     | 取組のよさを付箋紙にメモしてほめる  |                   | 必要に応じ、支援する |                    |                  |  |
| 休み時間 |                     | 必要に応じ、支援する         | 学級全体の休み時間の様子を把握する |            |                    |                  |  |
| 給食   | 一人一人の安全な給食について留意する  |                    |                   |            |                    |                  |  |
| 清掃   | 必要に応じ、支援する          | 支援の結果をメモで担任に伝える    |                   |            |                    | 掃除の様子を見守り、担任に伝える |  |
| 下校時  | 一日の取組のよさを伝える        |                    |                   |            | 各教室を巡回し、様子を確かめる    |                  |  |

### ２ 振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい  
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

### １ 個別の指導計画に基づいた協議

#### 【協議の観点の例】

- 評価
  
  
  
  
  
- 子どものよさのとらえ直し
  
  
  
  
  
- 学習や生活を行っていく上で困難なことの再確認
  
  
  
  
  
- 長期目標や短期目標の妥当性
  
  
  
  
  
- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

### ２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

### １ 個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・ 中学校のコーディネーターが、高等学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

### ２ 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

**「校内研修プログラム」  
研修シート（試案）  
高等学校**

# 研修シート(試案)

## I－1 発達障がいの特徴の理解

◎ ねらい

発達障がいのある生徒の学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

### 1 疑似体験（教師役と生徒役、観察者に役割を分担して実施します）

#### 演習1

※演習例

① 教師役が、次のような長い文章を早口で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。  
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから西15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。  
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が生徒役に質問をします。

- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
- ・地下鉄はどこで降りますか。
- ・何番線のバスに乗りますか。
- ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

#### 演習2

※演習例

準備：英文（61ページ参照）

教師役が英文をできるだけ早口で1回だけ読み聞かせます。  
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

### 2 振り返り（発達障がいのある生徒の心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## I - 2 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

### 1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる生徒の実態把握をする。

| 項目           | 内 容                                                | 該当する場合は○ |
|--------------|----------------------------------------------------|----------|
| 長所           |                                                    |          |
| がんばろうとしていること |                                                    |          |
| 聞く           | 全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい                            |          |
| 話す           | 話しているうちに内容がそれることが多い                                |          |
| 読む           | 文字は読めても単語や文として読むことが難しい                             |          |
| 書く           | 板書を書き写すのに時間がかかることが多い<br>細かい部分を書き間違えることが多い          |          |
| 計算する         | 計算するのに時間がかかることが多い<br>答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい |          |
| 推論する         | 図形を描くことが難しい<br>文章題を解くことが難しい                        |          |
| 注意集中         | 気が散ることが多い<br>最後まで課題に取り組むことが難しい                     |          |
| 多動性          | じっと座っていられずに立ち歩くことが多い                               |          |
| 衝動性          | 質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い                             |          |
| 人とかかわり       | 相手の感情や立場を理解することが難しい                                |          |
| コミュニケーション    | 自分が分からない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい                    |          |
| 興味の範囲        | 興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い                      |          |
| 特異な行動        | 身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ                            |          |

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

### 2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の生徒にとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

### 3 振り返り (実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと)

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学 年 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

| 生徒のよさ(○)<br>学習や生活上、困難なこと(△)                                                                                                |                       | 長期目標<br>(１年後を目標に)                                                      |                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| ※記入例<br>○ 数学の計算問題が速くできる。<br>○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。<br>△ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。<br>△ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。 |                       | ※記入例<br>・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。<br>・プリント等の配布物を整理して保管することができる。          |                                     |
| 短期目標<br>(１～３か月後を目標に)                                                                                                       | 場 面                   | 指導や支援の内容、方法                                                            | 評 価                                 |
| ※記入例<br>・集中できる時間が長くなるようにする。                                                                                                | ※記入例<br>・授業中          | ※記入例<br>・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。<br>・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。 | ※記入例<br>・３０分以上は集中して取り組めるようになってきている。 |
| ※記入例<br>・持ち物を自分で片付けることができる。                                                                                                | ※記入例<br>・授業中<br>・学校生活 | ※記入例<br>・教科別や、保護者文書用のファイルを用意し、整理できるよう促す。                               | ※記入例<br>・期限を守って提出できるようになってきている。     |

## ２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

### ◎ ねらい

個別の教育支援計画について、保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

### 1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～生徒の成長に向けて保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

#### 【場面設定の例】

- ・授業中、自分が分からない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい生徒について、当該の生徒の保護者と２回目の話し合いの場面
- ・１回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

#### 【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- 生徒ができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

### 2 振り返り（場面を演示して気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ① 指導や支援

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮を含めた学級（ホームルーム）づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 取組の交流

| 項 目                          | 事 例                                                                                                                                                                                    | 各項目ごとの<br>学級（ホームルーム）づくりに関する取組交流 |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| ※記入例<br>もめごとやケンカを<br>少なくする取組 | ※記入例<br>暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅に<br>ビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言<br>を担任は短冊に書き、それを生徒たちの目の前で<br>破り、ビニール袋に投げ入れています。                                                                                |                                 |
| ※記入例<br>叱り方に見通しをも<br>たせる取組   | ※記入例<br>叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、<br>・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱<br>る<br>・できることをしないときは、叱る<br>・名札を忘れたときは、少し叱る<br>など、叱る基準を４月に生徒に伝え、それを１<br>年間守ります。                                                 |                                 |
| ※記入例<br>騒がしい教室を静か<br>にする取組   | ※記入例<br>どの生徒も静かに集中して学習するために、<br>「これから『サイレントモード』を始めます。１<br>分です。」と言って静かにする時間をつくってい<br>ます。また、どの生徒も静かに集中して活動す<br>るために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示す<br>ることがあります。                                        |                                 |
| ※記入例<br>保護者との信頼関係<br>づくりの取組  | ※記入例<br>４月当初から、教師から見た生徒一人一人のいい<br>ところをメモしておいたり、「お子さんのよいと<br>ころや担任にのぞむこと」などについて保護者アン<br>ケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や<br>行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんば<br>っています。□□が得意なんですね。」と声をかけ<br>ることを大事にしています。 |                                 |

#### ２ 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

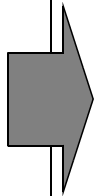
## Ⅲ－１ 学級づくり

### ② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮を含めた学級（ホームルーム）づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

**１ 実践の検討**（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、生徒への教師の言葉がけの在り方を整理する。）

|    | 「言葉がけ」                                                                              | 「好意に満ちた言葉がけ」                                                                |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 例１ | 「またＡ君か。誰かがけがしたら、どうする、危ないって言ったでしょ！何回言ったら分かるんだ！」                                      | 「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」                                             |
| 例２ | 「静かにしなさい！」                                                                          | 「Ｂのグループは静かに待ってるね。」                                                          |
| 例３ | 「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低の学級です！」                                                         | 「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で一番いいね！あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」 |
|    |  |                                                                             |

**２ 振り返り**（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－１ 学級づくり

### ③ 障がいの理解

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮を含めた学級（ホームルーム）づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 生徒たちに、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                               | 取組事例                                                                                    | 各項目ごとの取組交流 |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 発達障がいのある生徒が学習や生活を行っていく上で困難なことの体験 | ○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験<br>○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験<br>○友達を遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験 |            |
| 一人一人のよさの理解                       | ○生徒同士が、一人一人のよさについて理由を述べてホームルーム全体に説明する機会の設定<br>○生徒一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定              |            |

#### ２ 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目         | 取組事例                                                                                                    | 各項目ごとの取組交流 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 一人一人のよさの啓発 | ○保護者会等で、生徒一人一人のよさや違いを認め合う学級づくりを行うことについての説明<br>○保護者向けの通信などで、生徒一人一人のよさを紹介する機会の設定<br>○生徒一人一人に活躍の機会を与える場の設定 |            |

別紙の「生徒の皆さんへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、学級の生徒たちや保護者に説明し、理解を得ておくことも考えられます。

#### ３ 振り返り（発達障がいについて、生徒や保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

## 保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 保護者の皆様へ

生徒には、それぞれよさやできることがたくさんありますが、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」「会話が一方的である」「気が散ることが多い」など、支援を必要とする場合があります。

こうしたことから、本校では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本校においても、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての生徒のよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の生徒への差別やえこひいきをするものではありません。

「分かりやすい授業づくり」や「互いの違いを認め合える学級づくり」に取り組むことは、一部の生徒だけでなく、すべての生徒に対する指導の充実を図っていきけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

## 生徒に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

### 生徒の皆さんへ

人は、一人一人違います。一人として全く同じ人はいません。

例えば、「足が速い、遅い」「好きな食べ物が違う」などです。

ですから、学校でも、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」と感じることもあれば、「友達と会話がうまくできない」「気が散ることが多い」など、先生の手助けが必要なことがあるかもしれません。

先生は、学習が不得意だったり、集団生活が苦手だったりすることに対しては、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、一人一人の努力に対し、サポートしていきたいと考えています。どの生徒にも、よさや可能性が伸びていくよう、一人一人に応じた指導を行っていくので、一部の生徒への差別やえこひいきをするものではありません。

ですから、学級のみなさんも、先生が「互いのよさや違いを認め合える学級づくり」に取り組むことについて、協力してください。また、このことについて、意見や質問があれば、いつでも先生に伝えてください。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－２ 授業づくり

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

### 1 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

| 過程 | 生徒の主な学習活動                        | 発達障がいのある生徒に対する教師の配慮の例                                                                                                                                                                                      |
|----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ■ 生徒が何を、どのように学ぶかを見通すことができる。      | ◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。<br>□ 課題を視覚的に理解できるようにする。<br>□ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。<br>□ 考え方や解き方を説明する(ＩＣＴ機器等の活用など)。<br>□ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。<br>□ 本時の学習のねらいを示す。<br>など                                               |
| 展開 | ■ 生徒が目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。   | ◎ 集中して取り組めるよう工夫する。<br>□ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。<br>□ しやべらないで、集中して学習するよう促す。<br>□ 一人で解決することがむずかしい生徒には、教師が付いて、その生徒の状況に応じた方法(視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など)で教える。<br>□ 取組の途中で、その生徒なりのがんばりをほめる。<br>など |
| 整理 | ■ 生徒が学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。 | ◎ 学んだことを理解できるよう工夫する。<br>□ 考え方や解き方をまとめる(ＩＣＴ機器等の活用など)。<br>□ 本時の学習で分かったことを確認する。<br>□ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。<br>不十分な場合は、その生徒の状況に応じた方法で教える。<br>※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。<br>など                             |

#### 【授業全般を通じた配慮の例】

- 教師の発言
  - ・ 教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
  - ・ 大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
  - ・ 読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

### 2 振り返り

- ※ 授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

# 研修シート(試案)

## Ⅲ－３ 校内の連携

◎ ねらい

学校全体で取り組む発達障がいのある生徒への指導や支援の在り方を検討する。

### １ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

|          | 学級担任 | 副担任 | 教科担任 | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭 | 部活動の<br>顧問 |
|----------|------|-----|------|--------------------|------|------------|
| 登校時      |      |     |      |                    |      |            |
| 授業中      |      |     |      |                    |      |            |
| 休み時間     |      |     |      |                    |      |            |
| 昼食<br>休憩 |      |     |      |                    |      |            |
| 清掃       |      |     |      |                    |      |            |
| 下校時      |      |     |      |                    |      |            |

記入例

|          | 担任                 | 副担任               | 教科担任       | 特別支援教育<br>コーディネーター | 養護教諭             | 部活動の<br>顧問    |
|----------|--------------------|-------------------|------------|--------------------|------------------|---------------|
| 登校時      | 教室で生徒を出迎え、体調等を確認する |                   |            | 各教室を巡回し、様子を確かめる    |                  |               |
| 授業中      |                    |                   | 必要に応じ、支援する |                    |                  |               |
| 休み時間     |                    | 学級全体の休み時間の様子を把握する |            |                    |                  |               |
| 昼食<br>休憩 | 一人一人の安全な昼食について留意する |                   |            |                    |                  |               |
| 清掃       | 必要に応じ、支援する         |                   |            |                    | 掃除の様子を見守り、担任に伝える |               |
| 下校時      | 生徒に一日の取組のよさを伝える    |                   |            | 各教室を巡回し、様子を確かめる    |                  | 担任から、今日の様子を聞く |

### ２ 振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい  
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

### １ 個別の指導計画に基づいた協議

#### 【協議の観点の例】

- 評価
  
  
  
  
  
- 生徒のよさのとらえ直し
  
  
  
  
  
- 学習や生活を行っていく上で困難なことの再確認
  
  
  
  
  
- 長期目標や短期目標の妥当性
  
  
  
  
  
- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

### ２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

# 研修シート(試案)

## Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種（進路先）への引継ぎの仕方について考える。

### １ 個別の教育支援計画を活用した次の校種(進路先)へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・高校のコーディネーターが、次の校種（進路先）のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

### ２ 振り返り（場面を演示して気付いたこと）

# 「校内研修プログラム」 研修シート（試案） 共通

# 研修シート（試案）

## V－1 参考資料の活用

◎ ねらい

知りたい内容について、参考資料を活用し、研修を深める。

|   | 知りたい内容                                | 項目と資料等                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>インクルーシブ教育について知りたい</b>              | <b>■文部科学省Webページ</b><br><b>インクルーシブ教育システム構築データベース</b><br>○ 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）                                                                                                                                                              |
| 2 | <b>特別な教育的支援を必要とする児童生徒の全国的な状況を知りたい</b> | ○ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査結果について                                                                                                                                                                                                                       |
| 3 | <b>特別支援教育の研修の内容や方法について学びたい</b>        | <b>■国立特別支援教育総合研究所Webページ</b><br>○ 学校等における教職員を対象とした校内研修でも活用できる研修講義コンテンツ等<br>○ すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド<br><br><b>■発達障害教育情報センターWebページ</b><br>○ 小中学校等の教員等を対象とした発達障がいのある子どもへの対応や、研修講義コンテンツ等<br>○ 発達障がいのある子どもの教育的支援に活用されている教材・教具や教育支援機器等の紹介                       |
| 4 | <b>道内の取組や研修資料について知りたい</b>             | <b>■北海道立特別支援教育センターWebページ</b><br>○ これまでに作成した研修資料や研究紀要等<br>○ 各管内の相談支援マップ<br>○ 各管内の個別の教育支援計画の様式例等<br>○ 「PEARLS OF WISDOM」<br>（通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒に対する支援の在り方について）<br><br><b>■北海道教育委員会特別支援教育課Webページ</b><br>○ 特別支援学級を担当する方のための4ステップガイドブック<br>○ みんなに分かりやすい授業づくりのポイント！ |

# 研修シート（試案）

## V－2 研修成果の検証

### 例【教職員へのアンケート項目の例】

※ 教職員に感想を聞く、アンケートをとる（項目は学校で設定）。○を付ける

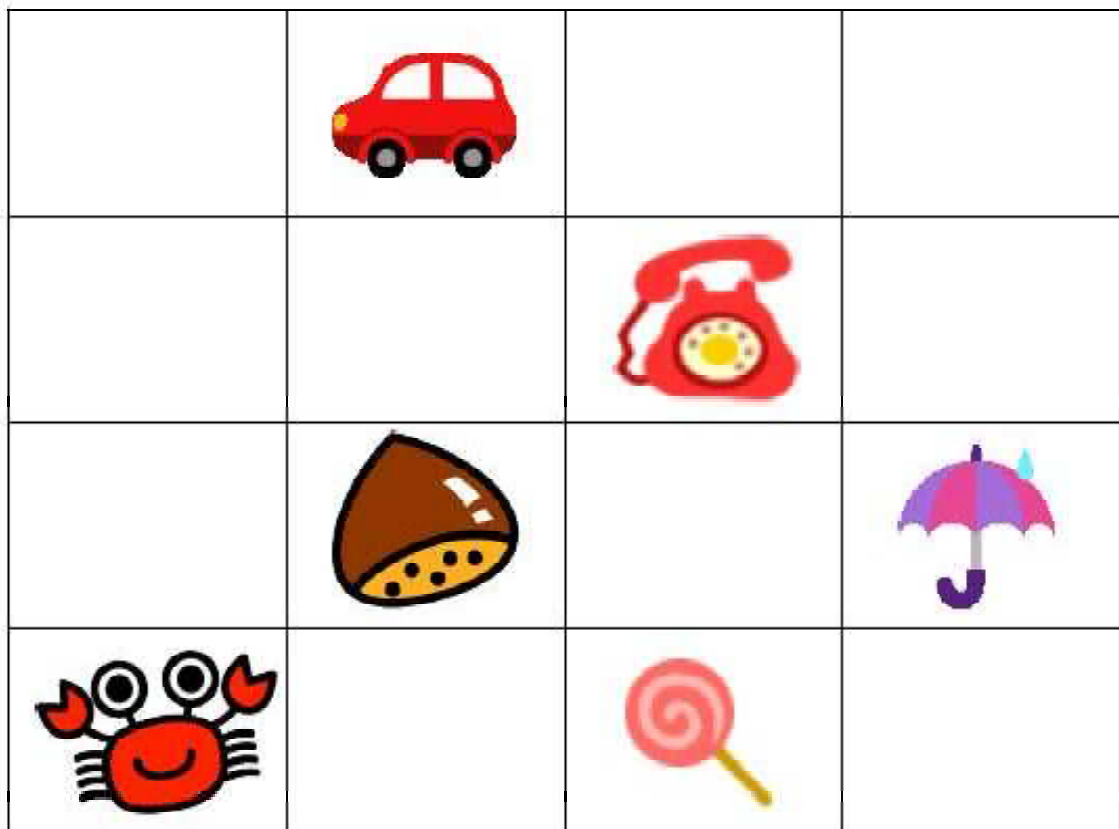
|   | 発達障がいのある子どもへの指導や支援について   | 十分理解している | 少し理解している | あまり理解していない | 全く理解していない |
|---|--------------------------|----------|----------|------------|-----------|
| 1 | 発達障がいの特性の理解              |          |          |            |           |
| 2 | 実態把握、支援方法の検討             |          |          |            |           |
| 3 | 個別の指導計画の作成               |          |          |            |           |
| 4 | 個別の教育支援計画の作成             |          |          |            |           |
| 5 | 発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくり |          |          |            |           |
|   | ① 指導や支援                  |          |          |            |           |
|   | ② 教師の言葉かけ                |          |          |            |           |
|   | ③ 障がいの理解                 |          |          |            |           |
| 6 | 発達障がいのある子どもへの配慮を含めた授業づくり |          |          |            |           |
| 7 | 校内（園内）の連携                |          |          |            |           |
| 8 | 個別の指導計画の活用               |          |          |            |           |
| 9 | 個別の教育支援計画の活用             |          |          |            |           |

### 例【子どもへのアンケート項目の例】

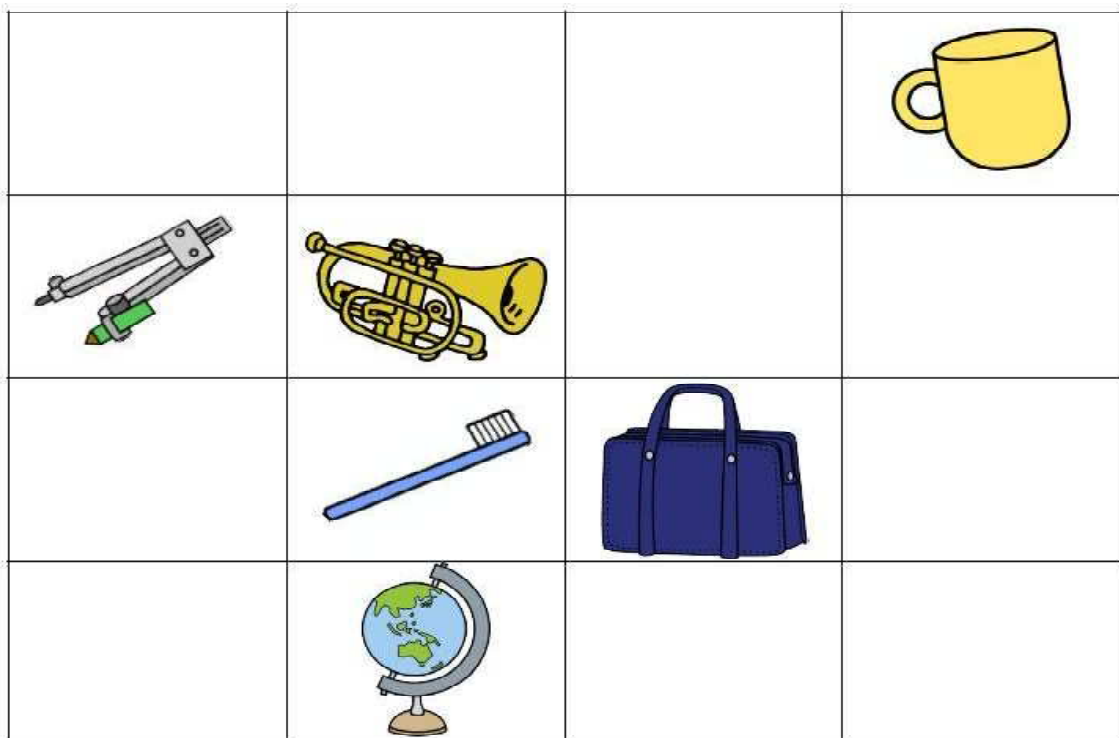
※ 子どもに感想を聞く、アンケートをとる（項目等は学校で設定）。○を付ける

|   | 学校生活で感じていることについて            | そう思う | どちらかといえばそう思う | そう思わない |
|---|-----------------------------|------|--------------|--------|
| 1 | 学級は、みんなで協力していると思う。          |      |              |        |
| 2 | 先生は、あなたのよいところをみとめてくれていると思う。 |      |              |        |
| 3 | 授業や先生の説明は、分かりやすいと思う         |      |              |        |

(幼稚園の疑似体験用)



(小学校の疑似体験用)



(中学校・高等学校の疑似体験用)

Can you stop chatting with your friend  
in your classroom?

日本語訳  
「この教室では、おしゃべりやめてね」

# 「校内研修プログラム」

## 参 考

研修シート（試案）の活用例については、モデル校が幼稚園２園、小学校３校、中学校３校であることから、高等学校の取組例は掲載していません。

今後、高等学校の取組例を含めて、全道の校内研修の取組の情報を収集し、お知らせしていきます。

# 研修シート(試案)の活用例

## I - 1 発達障がいの特徴の理解

### モデル校の取組(中学校)

～校内研修において、特別支援学校教諭を講師に教職員全員で取り組みました。

- ◎ ねらい  
発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

### 1 疑似体験 (教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します)

#### 演習1

※演習例

- ① 教師役が次のような長い文章を早口に口頭で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。  
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから円15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。  
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

- ② このあと、教師役が子ども役に質問をします。
- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
  - ・地下鉄はどこで降りますか。
  - ・何番線のバスに乗りますか。
  - ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

#### 演習2

※演習例

準備：英文（61ページ参照）

教師役が英文（61ページ参照）をできるだけ早口で1回だけ読み聞かせます。  
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

### 2 振り返り (発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと)

- この演習はとても分かりやすく、生徒の戸惑う気持ちがよく分かりました。
- 生徒がどんどん追い込まれていく、そのつらさを実感しました。
- こうした体験を行うことで、どの教師も発達障がいの特徴を理解できると思いました。
- 教師が「ゆっくり話す」ということが、とても大切だと感じました。
- 「質問は後で受ける」ことを先に告げておくことが大切だと思いました。
- 生徒に伝える情報量を少なくしなければならないと思いました。

# 研修シート(試案)の活用例

## I－2 実態把握、支援方法の検討

### モデル校の取組(幼稚園)

～保育終了後に、教育局特別支援教育スーパーバイザーの助言のもと、関係職員で取り組みました。

#### ◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

### 1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

| 項目                      | 内 容                                  | 該当する場合は○ |
|-------------------------|--------------------------------------|----------|
| 長所                      | ・折り紙を使った作品づくりなど、興味関心のあることには工夫しようとする。 |          |
| がんばろうとしていること            | ・友だちと同じように行動できるよう、友だちの様子を気にして見ている。   |          |
| 言語発達が遅い                 |                                      | △        |
| 絵本や紙芝居を座って静かに聞くことが苦手である |                                      | ○        |
| 数の理解が進まない               |                                      |          |
| 相手の気持ちに気付かないことがある       |                                      | △        |
| 集団活動が苦手である              |                                      | ○        |
| 人より、物に興味関心が強い           |                                      |          |
| 衝動性が見られる                |                                      | ○        |
| 初めてのことや、初めての環境に戸惑うことが多い |                                      | ○        |

(よくある場合は○、ときどきある場合は△としました)

### 2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

- ・友だちと同じように行動できないとパニックを起こしてしまうため、時間内に終わらないときは、別の 手立てを知らせ、自分でできるのを見守るようにする。
- ・机に出す道具や授業の流れなどについて、絵やメモなどにより、視覚的に知らせる。
- ・思ったことをすぐ話してしまうことについて、どのように改善していくかを本人や保護者と相談していく。

### 3 振り返り (実態把握と支援方策の検討を通して、留意点として考えたこと)

- パニックを起こす場面を想定できたので、様々な対応を準備しておきたいです。
- 困ったとき、どのように教師に相談したらよいかを、本人に伝えておきたいです。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

### モデル校の取組(幼稚園)

～校内委員会で、特別支援学校教諭の助言のもと、関係職員で取り組みました。

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

### １ 個別の指導計画作成の演習

| 子どものよさ(○)と<br>活動や生活上、困難なこと(△)                                                                                                                         |          | 長期目標<br>(１年後を目標に)                                                                |                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| ○ 走り回ったり、ジャンプしたりすることが得意である。<br>○ 時計や蛍光灯を見るのが好きである。<br>△ 奇声を発して止めさせようとしても、聞き入れられない時がある。<br>△ なんでも口に入れて、感触を楽しむなどの行動がみられる。<br>△ うるさく感じると、耳をふさぎ、何も聞かなくなる。 |          | ・自分で出来ることを少しずつ増やしていく。<br>・友達を意識できるように言葉がけをしたり、無理のないよう行動を促す。                      |                                       |
| 短期目標<br>(１～３か月後を目標に)                                                                                                                                  | 場面       | ○指導や支援の内容、方法                                                                     | 評価                                    |
| お弁当を食べる準備を一人で完了できる。                                                                                                                                   | お弁当の時間   | ○ 全体に対し、「ホテルのランチ」と称して、いっさいしゃべらないで食べるように促す。<br>○ お弁当の準備の流れをホワイトボードで確認しながら行うようにする。 | 学級担任に声をかけられなくても、自分で確認して準備できるようになってきた。 |
| 友達に自分から声をかけて一緒に作業することができる。                                                                                                                            | ものづくりの時間 | ○ 全体に対し、しゃべる時はひそひそ声で近くの友達とだけにするように促す。<br>○ 一緒に作業をはじめたら、ほめるようにする。                 | 自分から声をかけるようになってきた。                    |

### ２ 振り返り(個別の指導計画を作成して、気付いたこと)

- 短期的な目標と長期的な目標を考えておくだけで、あせらず、支援できると思いました。
- 今まででは個別の支援だけに気を取られていましたが、全体への指導をきちんとした上で、個別に対応することを考えることの大切さがわかりました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

### モデル校の取組(幼稚園)

～校内委員会で、教育局特別支援教育スーパーバイザーの助言のもと、関係職員で取り組みました。

#### ◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

### 1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

#### 【場面設定】

- ・絵本の読み聞かせなどの途中、立ち歩いてしまう子どもについて、当該の子どもの保護者と2回目の話し合いの場面
- ・1回目の話し合いで母親は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画（それに代わるカードやノートなどでもよい）を作成することについて、同意を得ようとする場面

#### 【教育相談を進める観点】

- お母さんの思いを聞く
  - ・自分で出来ることを少しずつ増やしてほしい。
  - ・友だちを意識できるように言葉がけをしたり、無理のないよう行動を促してほしい。
- お母さんに支援の内容や方法を提案する
  - ・お弁当の時間に用意する物の順番を絵で見せて、自分で用意できるようにしたい。
  - ・クラスの友達に物を配るお手伝いをさせることで、名前を覚えられるようにしたい。
- お子さんができるようになってきたこと、うまくいっていないことを確かめ合う
  - ・家では、お弁当の時間の持ち物を1つずつ手渡ししてバッグに入れさせているので、自分で確かめてできるようにしたい。
  - ・家では、友達が遊びに来た時に、おもちゃを友達に貸そうとするが、まだ名前を覚えていないかもしれない。
- 次の支援を一緒に考える
  - ・もし、幼稚園での絵で見せる支援で効果が見られたら、家でも同じように絵を順番に見せたり、片付け方を教えたりしてみたい。
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う
  - ・将来にわたって一貫した支援の見通しがもてる。
  - ・校種が変わっても、同じ説明を何度もしなくてもすむ。
  - ・学校と家庭で一緒に子どもの成長を確認できる。

### 2 振り返り(場面を演示して気付いたこと)

- 教師役を演じてみて保護者を説得するのではなく、子どもを中心に据え、お子さんにとって何が一番よいことかを保護者と共に考える姿勢が大切だと感じました。
- 保護者役を演じてみて、「この先生なら任せられる」と思えるかどうか大切だと感じました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅲ－１ 学級づくり ① 指導や支援

### モデル校の取組(中学校)

～生徒指導交流会で、学級経営や教科経営上の工夫について、教職員で交流しました。

#### ◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### 1 取組の交流

| 項 目                      | 事 例                                                                                                                                                             | 各項目ごとの学級づくりに関する取組交流                                                                                       |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ※記入例<br>もめごとやケンカを少なくする取組 | ※記入例<br>暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。                                                                    | ○ 「できないことを笑わない」ことを生徒と共に取り組んでいます。                                                                          |
| ※記入例<br>叱り方に見通しをもたせる取組   | ※記入例<br>叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、<br>・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る<br>・できることをしないときは、叱る<br>・名札を忘れたときは、少し叱る<br>など、叱る基準を4月に子どもたちに伝え、それを一年間守ります。                               | ○ 叱る基準を生徒に明確に示しています。                                                                                      |
| ※記入例<br>騒がしい教室を静かにする取組   | ※記入例<br>どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。1分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。                                       | ○ まず、教師の説明や指示を短くしたり、アイコンタクトやジェスチャーなどの非言語を使い、教師の言葉を減らしています。<br>○ 授業の最初は必ず、どの生徒も集中して取り組める発問や作業を与えるようにしています。 |
| ※記入例<br>保護者との信頼関係づくりの取組  | ※記入例<br>4月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。 | ○ 保護者に学校から連絡をするときは、生徒の最近の様子やよさを先に伝えるようにしています。                                                             |

#### 2 振り返り(学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと)

- 教師が話す言葉を精選することが大事だと思いました。
- 先生方が取り組んできた生徒への配慮を交流し、共有財産にしていくとよいと思いました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅲ－１ 学級づくり ② 教師の言葉がけ

### モデル校の取組(幼稚園)

～会議終了後の短い時間で、教職員で「好意に満ちた言葉がけ」を交流しました。

#### ◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

#### １ 実践の検討(「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、子どもへの教師の言葉がけの在り方を整理する。)

|    | 「言葉がけ」                   | 「好意に満ちた言葉がけ」                             |
|----|--------------------------|------------------------------------------|
| 1  | 「うるさい」                   | 「A君、静かに待つのが上手だね。みんなはどうかかな？」              |
| 2  | 「さっき説明したでしょう。聞いていなかったの？」 | 「周りの友だちはどうしているか見てごらん」                    |
| 3  | 「ちゃんとやらないといけません」         | 「みんなのお手本になってあげてね」                        |
| 4  | 「早くしないと間に合わないよ」          | 「早く準備できた人から順番に、シール手帳を取りに来てください」          |
| 5  | 「片付けなさい」                 | 「片付けが終わったら、〇〇に遊びに行きます。みんなで片付けるとたくさん遊べるよ」 |
| 6  | 「触りません」                  | 「今日は、見るだけです」                             |
| 7  | 「A君、列からずれているよ」           | 「A君、前の友達の肩を見てね」                          |
| 8  | 「ちゃんと座って」                | 「A君の座り方、かっこいいね」                          |
| 9  | 「横入りしないで」                | 「友達の後ろに並ぶと順番がくるよ」                        |
| 10 | 「また、忘れたの」                | 「気を付けていたのに忘れたんだね。今度は持ってきてね」              |

#### ２ 振り返り(教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと)

- 書き出すと改めて気付くことがあり、子どもが前向きになる言葉がけをしていきたいです。
- 言葉遣いに気を付けていたつもりでしたが、きつい言葉が多かったことに気付きました。
- 「好意に満ちた言葉がけ」の中で、いい言葉だなと思った言葉は、みんなが「なるほど！」と思い、「座布団１枚！」という声もあり、楽しく交流できました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅲ－１ 学級づくり ③ 障がいの理解

### モデル校の取組(小学校)

～学級経営交流会で、障がいの理解を深める取組について、担任同士で交流しました。

#### ◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

### １ 子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                                        | 取組事例                                                                                                    | 各項目ごとの取組交流                                                                  |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ※記入例<br>発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験 | ※記入例<br>○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験<br><br>○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験<br><br>○友達を遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験 | ○総合的な学習の時間における点字やアイマスクの体験、車椅子の体験<br><br>○学級活動におけるコミュニケーション不足がトラブルのきっかけとなる体験 |
| ※記入例<br>一人一人のよさの理解                        | ※記入例<br>○子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定<br><br>○子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定                    | ○帰りの会における子ども同士が、一人一人のがんばりについて発表する機会の設定<br><br>○子ども一人一人の個人目標を教室内に掲示し、折に触れて確認 |

### ２ 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

| 項目                 | 取組事例                                                                                                                  | 各項目ごとの取組交流                                                                          |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| ※記入例<br>一人一人のよさの啓発 | ※記入例<br>○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認め合う学級づくりを行うことについての説明<br><br>○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定<br><br>○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定 | ○保護者会で、別紙資料を活用して、子ども一人一人の違いを踏まえ、よさを認め合う学級づくりを行うことについて説明<br><br>○学級通信で、子ども一人一人のよさを紹介 |

### ３ 振り返り (発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと)

- 他の学級の取組やその留意点を聞くことができて、とても参考になりました。
- 他の学級の取組で参考になったことを自分の学級でも生かしていきたいです。
- 保護者に対し、最初の段階で丁寧に説明しておくことの大切さを改めて実感しました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅲ－２ 授業づくり

### モデル校の取組(小学校)

～校内授業研で、指導案上に配慮の計画を記載し、授業後に全校で検討しました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

### 1 授業中の配慮

| 過程 | 子どもの主な学習活動                        | 本時における教師の配慮の計画                                                                                                                                        |
|----|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ■ 子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。      | <input type="checkbox"/> 全体への配慮<br>・全員の子に分かりやすいよう、簡潔な発問、指示をする。<br><input type="checkbox"/> A君への配慮<br>・教師の説明が分かったかどうか確かめる。                             |
| 展開 | ■ 子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。   | <input type="checkbox"/> 全体への配慮<br>・しゃべらないで、集中して学習するように伝える。<br>・実物投影機を使うなど、視覚的支援を行う。<br><input type="checkbox"/> A君への配慮<br>・アイコンタクトやジェスチャーで励ましや注意をする。 |
| 終末 | ■ 子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。 | <input type="checkbox"/> 全体への配慮<br>・練習問題により、一人一人の状況を確認し、不十分な場合は、繰り返し指導する。<br><input type="checkbox"/> A君への配慮<br>・A君なりのがんばりをほめる。                       |

#### 【授業全般を通した配慮の例】

- 教師の発言
  - ・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
  - ・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
  - ・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

### 2 振り返り

- 教師の話す言葉を減らしていくと、子どもたちが集中するということを実感しました。
- しゃべらない静寂の時間により、子どもたちが学習に集中していて、素晴らしかったです。
- 最後にA君にアイコンタクトでほめていたところは、A君も嬉しそうにしていました。  
改めて、教師が発する言葉は、好意に満ちた温かい言葉であることが大切だと実感しました。

# 研修シート(試案)の活用例

## Ⅲ－３ 園内の連携

### モデル校の取組(幼稚園)

～園内研修で、職員一人一人のA君へのかかわり方を、職員全員で考えました。

#### ◎ ねらい

園全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

#### 1 A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、園全体で組織的に対応していくため、職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

|       | 担任                | 副担任                    | 園長                                | 主任                  | 担任以外の先生                           | 預かり保育担当者              |
|-------|-------------------|------------------------|-----------------------------------|---------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 登園時   | ・挨拶をし、今日の様子を見る。   | ・身支度ができるよう、絵カードを見せる。   | ・保護者から、家庭での様子を聞く。<br>・担任と副担任に伝える。 |                     |                                   |                       |
| 自由遊び  |                   | ・遊べるよう働きかける。           |                                   |                     |                                   |                       |
| 全体保育  | ・必要に応じて、支援する。     | ・教師の説明を、絵カードで伝える。      | ・必要な支援を行う。                        | ・担任と連携を図り、必要な支援を行う。 | ・別のクラスに入ってきたときは、自分のクラスに戻れるよう支援する。 |                       |
| お弁当   |                   | ・落ち着きがなくなったら、必要な支援を行う。 |                                   |                     |                                   |                       |
| 片付け   | ・必要に応じて、支援する。     | ・認める声がけをする。            |                                   |                     | ・別のクラスに入ってきたときは、自分のクラスに戻れるよう支援する。 | ・危険な様子が見られときは、側に寄り添う。 |
| 預かり保育 | ・担当者に引き継ぐ。        |                        |                                   |                     |                                   | ・遊びを一緒にしたり、見守ったりする。   |
| 降園時   | ・保護者に今日のがんばりを伝える。 |                        |                                   | ・玄関までの移動を見守る。       |                                   | ・困っているときは絵カードを見せる。    |

#### 2 振り返り (園全体で支援を行うために心がけること)

- シートを使って整理することで、それぞれの職員の対応がバラバラであったことに気付きました。
- 発見したことや、できるようになったことを近くにいる職員が認めることが大切だと思いました。
- 支援とその結果を伝え合い、一層連携して支援を行う必要があると実感しました。

# 個別の指導計画を作成しよう！

校内委員会において、通常の学級に在籍する子どもに特別な教育的支援を必要とすると判断した場合、一人一人に応じた個別の指導目標、指導や支援の内容等を盛り込んだ「個別の指導計画」を担当が中心となって早急に作成し、組織的・計画的に指導や支援を行っていく必要があります。

## 個別の指導計画（記入例）

学 年 小学3年

氏 名 北海太郎

| 子どものよさ（○）<br>学習や生活上、困難なこと（△）                                                | 長期目標<br>（1年後を目標に）                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ○ 算数の計算問題が速くできる。<br>○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。<br>△ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。 | ・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。<br>・学校生活のルールを守って、行動することができる。 |

### ★指導や支援の見通しがもつことができます！

- ・子どもの実態を的確に捉え、長期目標や短期目標、指導内容や方法等を明記することで、指導や支援の見通しがもてます。

### ★PDCAの取組につながります！

- ・評価をもとに、指導目標を見直したり、指導や支援の質を高めたりすることにつながります。

| 短期目標<br>（1～3か月後を目標に） | 場 面           | 指導や支援の内容、方法                                                    | 評 価                        |
|----------------------|---------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------|
| ・集中できる時間が長くなるようにする。  | ・授業中          | ・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。<br>・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。 | ・30分以上は座っているようになる。         |
| ・持ち物を自分で片付けることができる。  | ・授業中<br>・学校生活 | ・持ち物の片付け場所を決める。                                                | ・少しずつ片付けることができるようになってきている。 |

### ★校内の共通理解ができます！

- ・校内委員会で個別の指導計画を作成したり、見直したりすることで、校内の教職員の共通理解を図ることができます。

### ★個別の教育支援計画の作成につながります！

- ・個別の教育支援計画の様式の一部を活用したり、転記したりすることで、個別の教育支援計画の作成につなげることができます。

※ 個別の指導計画の作成と活用にあたって、「校内研修プログラム」の研修シート（試案）Ⅱ－1、Ⅳ－2を活用した研修を行うことが大切です。

※ このような簡便な計画でよいので、「まずつくる」ことから始めることが大切です。

# 個別の教育支援計画の作成を目指そう！

校内委員会において、通常の学級に在籍する子どもに特別な教育的支援を必要とすると判断した場合、本人・保護者の同意のもと、一人一人の教育的ニーズを把握し、医療、保健、福祉、労働等の関係機関との連携を図りつつ、「個別の教育支援計画」を作成し、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した教育的支援を行っていくことが大切です。

(様式〇)

## 個別の教育支援計画

～就学移行期用シート～

|     |         |                     |       |      |             |             |
|-----|---------|---------------------|-------|------|-------------|-------------|
| 氏名  | 北 海 太 郎 | 性別                  | (男)・女 | 生年月日 | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 |             |
| 作成者 | 保護者     | 北 海 一 郎 (父)         |       |      | 在園名         | 〇〇〇幼稚園      |
|     | 学 校     | 〇 〇 〇 〇 (〇〇町立〇〇小学校) |       |      | 就学先         | 〇〇町立〇〇小学校   |
|     | 教育委員会   | 〇 〇 〇 〇             |       |      | 作成日         | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 |
|     | 関係機関等   | 〇 〇 〇 〇 (発達支援センター)  |       |      | 修正日         | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 |

| ● 本人・保護者の願い等                          |                                                             |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 本人の願い                                 | 保護者の願い                                                      |
| 将来の夢<br>・お父さんのように、がんばって働けるような大人になりたい。 | 将来の夢<br>・就職して、自立した生活を営んでほしい。                                |
| 興味関心<br>・電車の図書やDVDの鑑賞。                | 就学先<br>・〇〇町立〇〇小学校 (通常の学級)                                   |
|                                       | 学 校<br>・自分の思い通りにならなくても、パニックを起こさずに、落ち着いて学習に取り組んでほしい。         |
|                                       | 生活等<br>・自分の気持ちを言葉で表現できるようになってほしい。<br>・円滑な人間関係が築けるようになってほしい。 |

| 支援の内容                   |  | 資料  |
|-------------------------|--|-----|
| 言語聴覚士による言語訓練            |  | p.〇 |
| 少人数の集団によるロールプレイトレーニング   |  | p.〇 |
| 個別の教育支援計画・指導計画の作成・活用    |  | p.〇 |
| 幼稚園の担任教諭に対する指導方法等の助言・援助 |  | p.〇 |

③ ・発達の段階等の把握

〇〇〇幼稚園  
〇〇〇養護学校  
道立特別支援教育センター

### ● 教育的ニーズの選定

・本人の言語発達の状態やこたわりの強さなどの特性を踏まえた学習能力を身に付ける。  
・担任及び支援員の支援を受けながら、友だちと一緒に活動する経験。

### ● 就学先の学校における合理的配慮の内容 (平成〇〇年)

| 観 点   | 支援の内容                                                                                                                | 備 考                                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育内容  | 学習上又は生活上の困難を改善するための配慮<br>・「適切な対人関係の困難さ」や「言語発達の遅れや異なる学習内容の習得の困難」                                                      | ・個別の指導計画の作成<br>・支援員と連携した指導                                                                     |
| 教育方法  | ・学習のペースや方法の調整<br>・写真や図画、模型、図表などを用いた説明<br>・活動予定表の作成<br>・学習の進捗を整理する。                                                   | ・変更・調整の内容を個別の指導計画に明記<br>・支援員による写真や図画等の提示<br>・予定表の作成は家庭にも協力を依頼<br>・全教職員に周知                      |
| 支援体制  | 専門性のある指導体制の整備<br>・指導方法等について〇〇養護学校から助言を受ける。<br>・道立特別支援教育センターの教育相談に担任も同行する。                                            | ・専門家からの助言内容を全教職員に周知                                                                            |
| 施設・設備 | 児童や教職員、保護者等への理解啓発を図るための配慮<br>災害時等の支援体制の整備<br>校内環境のバリアフリー化<br>発達、障がいの状態及び特性に応じた指導ができる施設・設備の配慮<br>災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮 | ・周知の徹底<br>・災害時の対応<br>・各教室のバリアフリー化<br>・図書室、心を落ち着かせる。<br>・体育館にパーテーションを設置する。<br>・本人が好む図書や玩具を常備する。 |

**★本人・保護者が一貫した支援の見通しをもつことができます！**  
・関係機関や学校等が共に支援内容を考えることで、将来にわたっての支援の見通しをもつことができます。

**★保護者が支援者と共に子どもの成長を確かめることができます！**  
・子どもの育ちを一步一步記録することで、支援者と共に子どもの成長を確かめることができます。

**★必要な支援や環境づくりの工夫等が引き継がれていきます！**  
・必要な支援や環境が次の校種や進路先に引き継がれていきますので、保護者が何度も同じ説明をしなくて済みます。

**★個別の指導計画の作成につながります！**  
・個別の教育支援計画を作成することで、その一部を個別の指導計画とすることができます。

※ 管内や市町村で個別の教育支援計画の様式（74ページ）を示している場合は、その様式を参考にしてください。

※ 個別の教育支援計画の作成に当たり、本人・保護者の同意が得られない場合は、校内研修プログラムを活用した研修を行い、個別の教育支援計画の利点を丁寧に伝えるなど、保護者の理解を得られるように努める必要があります。

なお、北海道教育委員会としても、各市町村を通じて、就学前の早期段階から保護者に対し、個別の教育支援計画の意義について意識啓発を推進していきます。

# 道内の各管内・各市町村版の「個別の教育支援計画」の様式

平成27年1月20日現在

|     | 管内版 個別の教育支援計画の様式                    | 市町村版 個別の教育支援計画の様式                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 空 知 | ○空知版個別の教育支援計画<br>「スタートシート(試用版)」     | ○妹背牛町「もせっこ母子手帳+(ぶらす)」<br>○栗山町「支援ファイルくりっこ」<br>○秩父別町「ステップ♪ちっぴ 母子手帳+(ぶらす)」<br>○夕張市「未来手帳」                                                                                                                                                                                                  |
| 石 狩 | ○個別の教育支援計画の作成例<br>○個別の教育支援計画の作成・活用術 | ○千歳市「黄色いファイル」<br>○石狩市「サポートブック」                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 後 志 | ○個別の教育支援計画(モデル・後志案)                 | ○小樽市「とむとむファイル」 ○京極町「相談支援ファイル」<br>○蘭越町「はばたきシート」                                                                                                                                                                                                                                         |
| 胆 振 | ○個別の教育支援計画～胆振モデル～                   | ○白老町個別の教育支援計画 ○安平町個別の教育支援計画<br>○厚真町個別の教育支援計画 ○苫小牧市個別の教育支援計画<br>○登別市個別の教育支援計画 ○伊達市個別の教育支援計画                                                                                                                                                                                             |
| 日 高 | ○日高教育局<br>「個別の教育支援計画(モデル案)」＜小学校＞    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 渡 島 | ○個別の教育支援計画の作成例                      | ○知内町「相談支援ファイル『結』」 ○函館市個別の教育支援計画<br>○八雲町「育ちと学びの応援ファイル カラフル」<br>○七飯町「育ちと学びの支援ファイル まっぶる」<br>○鹿部町「教育支援ファイル いずみ」                                                                                                                                                                            |
| 檜 山 | ○個別の教育支援計画の作成例                      | ○今金町個別の教育支援計画                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 上 川 | ○上川版個別の教育支援計画「すくらむ」                 | ○旭川市「育ちと学びの応援ファイル すくらむ」<br>○士別市「子育て応援ファイル すくらむ」<br>○名寄市「育ちと学びの応援ファイル すくらむ」<br>○富良野市「子どもの成長記録ファイル すくらむふらの」<br>○東神楽町「子育てサポートファイル えんじん」<br>○当麻町「育ちと学びの応援ファイル すくらむ」<br>○比布町「育ちと学びの応援ファイル いちごっ子ファイル」<br>○愛別町「育ちと学びの応援ファイル すくらむ・すくらむ」<br>○美瑛町「子育てファイル すとりーむ」<br>○上富良野町「育ちと学びの応援ファイル すくらむかみふ」 |
| 留 萌 | ○留萌版個別の教育支援計画「つなが一留」                |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 宗 谷 | ○個別の教育支援計画(宗谷版)                     | ○枝幸町「カラフルクレヨン」                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 林-ツ | ○オホーツク版個別の教育支援計画「育ちの手帳」             | ○清里町「教育支援計画 育ちの手帳」<br>○大空町「個別の教育支援計画」<br>○置戸町「育ちの手帳 はばたき」<br>○湧別町「個別の教育支援計画 育ちの手帳」                                                                                                                                                                                                     |
| 十 勝 | ○十勝版個別の教育支援計画「かちっと」                 | ○芽室町「子育てサポートファイル「めむたっち」」<br>○鹿追町「鹿追町個別の教育支援計画(支援カルテ)」<br>○広尾町「広尾町個別の教育支援計画」<br>○池田町「池田町版個別の教育支援計画「かちっと」」                                                                                                                                                                               |
| 釧 路 | ○釧路版個別の教育支援計画「マリーモ」                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 根 室 | ○根室版個別の教育支援計画                       | ○羅臼町「こんぱす」<br>○根室市「子育てファイルりんくす・ねむろ」                                                                                                                                                                                                                                                    |

# ◇◇◇発達障がいのある子どもへの指導や支援に関するICTの活用◇◇◇

通常の学級に在籍する発達障がいのある子どもの中には、授業中における全体への指示を理解することや、文章教材の内容を理解することが難しいなどの傾向がみられます。その場合、実物投影機やタブレット端末などのICT機器を活用し、絵や文字を使って視覚的に分かりやすい指示を行ったり、写真やプリントを使って順を追って説明したりする方法が考えられ、こうした方法は、学習上の困難を軽減し、学習内容の理解を深めるのに効果的です。

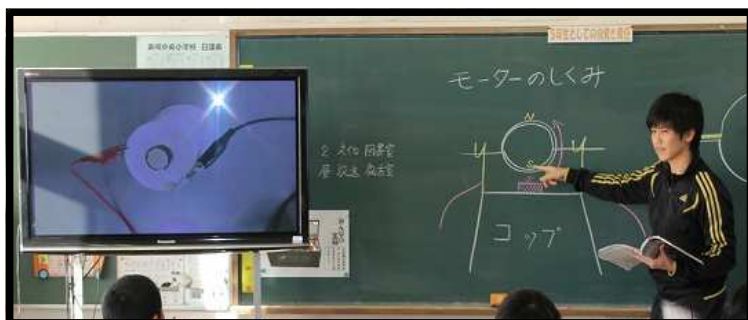
各学校においては、例えば、本校内研修プログラムの「Ⅲ－２ 授業づくり」のシートをもとに、ICTの活用について、次のようなミニ研修を行うことが考えられます。

## （１）授業における実物投影機の活用例



### ワークシートやノートを大きく映す

ワークシートやノートの書き方について、書き方がわからない子どもへの参考となるよう、見本となる子どもの書き込みを大きく映して見せました。



### 動きを大きく映す

理科におけるモーターの動きについて、どの子どもも理解できるように、板書と連動させて、モーターの動きを演示して見せました。

## （２）実物投影機の活用に関する校内研修の取組例

### 効果的な映し方を話し合う

大きさや映し方について、子どもたちの実態に照らして、実際に使用しながら考えました。



### 模擬授業を行う

見せ方や説明、発問などについて、授業の目標と子どもたちの実態を踏まえ、模擬授業を通して考えました。



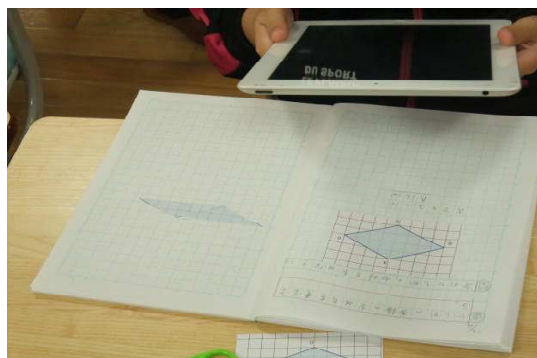
### (3) 授業におけるタブレット端末の活用例

#### 学習の見通しをもつ



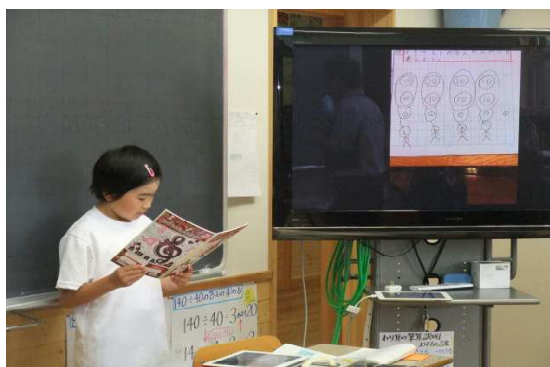
学習の見通しをもつことが難しい場合、単元全体の学習の流れをその都度、画面で再確認し、スムーズに学習に取り組めるように支援しました。

#### 学習を記録する



これまでの学習を振り返る際、より鮮明に思い出せるよう、ノートや操作活動を撮影し、学習の記録として残すよう支援しました。

#### 発表に使う



子どもが自らノートに書いたことをテレビ画面に大きく映すなどして、わかりやすく説明できるよう支援しました。

#### 学習の習熟を図る



授業の終末の練習問題において、自分の力に応じたタブレット端末上のドリル問題に取り組むよう、支援しました。

#### ICT(実物投影機、タブレット端末、電子黒板等)を活用する際の留意点

- 授業の目標を踏まえ、「どの場面で、どのように」活用するかを考えます。
- 活用することで、子どもたちが操作だけに集中してしまったり、学習活動が、授業の目標からはずれてしまうことのないよう注意します。
- 模擬授業等により、実際に映してみる、活用してみることで指導上の留意点を考えていく必要があります。

## 「発達障がいのある子どもとあったかクラスづくり」

プール学院大学准教授 松久眞実先生

平成26年8月27日(水) 13:20~16:00

北海道立特別支援教育センター大研修室 参加者65名

### 公開講義の概要

- よくある「ユニバーサルデザイン」の取組の一つとして、例えば視覚支援のカードを黒板に貼ったとしても、いくらスケジュールを提示したとしても、子どもたちが教師を尊敬、信頼していない限り、教師の指示は通らずクラスは落ち着きません。「視覚支援・見通し・構造化」などの特別支援教育の『ハード面』と、『ソフト面』にあたる「教師のほめ方・叱り方・教師の立ち振る舞い・わかりやすい指示の出し方・信頼される教師になること」は車の両輪でどちらも欠かすことはできません。
- いかに子どもたちを興奮させずに、落ち着いて勉強に取り組ませるか、それをいつも念頭において授業しています。そのためのポイントは「教室を低刺激にする」ことです。視覚や聴覚の刺激を減らすこと、その中の一つは「教師の言葉を減らす」ことです。教師の説明が長く、修飾語が多いと、子どもたちは大事な言葉を聞き逃します。特に、発達障がいのある子どもは、焦点化することが苦手で、優先順位が付けられないことが多いです。教師の言葉を減らせば減らすほど、教室が静かになり、挙げ足を取られる可能性が減ります。私は注意する言葉、ほめる言葉でさえも、なるべく非言語、ジェスチャー、アイコンタクト、ひそひそ声で伝えるようにしています。
- 私は叱り方をとても大事にしています。感情のまま叱っていると必ず失敗します。  
私が新任だった頃には、感情のまま叱っていても、子どもたちは「僕たちの将来を心配して叱っている」という私の意図をなんとなく想像してくれました。でも、発達障がいの子どもは、相手の気持ちがわかりにくく、字義通りしか言葉を理解できない傾向がみられます。
- 私は叱る基準を「森レベル」「林レベル」「木レベル」の3段階に分けて緩急を付けていました。「木レベル」では、ほとんど叱りません。だからこそ「森レベル」が際立つわけです。何でもかんでもガミガミ叱っていたら、大事な時に効き目がありません。この叱る基準は1年間変えません。先生が必ず叱ること、決して叱らないことがはっきりと示されている教室は、子どもたちにとって居心地がよいのです。
- 私が悪意に満ちた言い方をしているとクラスがギスギスしてきます。好意に満ちた語りかけをしていると、やがて子どもたち同士にも、好意が芽生えてきます。



【講師 松久眞実先生】

### 参加者の感想

- 前にも先生の話聞きまして、先生が言われた「音を少なくする」ということをやってみました。朝読書や授業を子どもたちが落ち着いて取り組むなど、成果がみられています。
- 指導や手立ての部分先生方に広めていきたいと思いました。

## 「崩れない学級づくりとは ～発達障がいのある子どもをつつむクラスづくり」

プール学院大学准教授 松久眞実先生

平成27年1月30日（金）12：50～16：00

北海道立特別支援教育センター大研修室 参加者78名

### 公開講義の概要

- ある先生は、学級が崩れていた時を振り返り、「個々の子どもばかり見ていて、全体を見ていなかった」と述べていました。このことから、まず、全体を落ち着かせること、その上で個別の対応を考えていくことが大事であることが分かります。学級が崩壊すると、発達障がいのある子どもが、いじめの標的になったり、非行に走ったり、不登校になってしまう事例が少なくありません。まず、学級全体を落ち着かせることです。そのためには、「教室の刺激を減らす」「叱り方・ほめ方を工夫する」「好意に満ちた語りかけを増やす」などの取組が大切です。
- 発達障がいのある子どもたちは突然叱られるのが苦手な傾向があるので、教師がいつ怒るか分からないと不安になります。私は、叱る基準を3段階に分け、4月に子どもたちに示し、1年間この基準を変えませんでした。この基準を示すことは子どもにとっての見通しになり、教師である私も、自分を律することになりました。叱る基準がぶれないことは、教師にとっては難しいことですが、筋が通った指導となり、子どもたちは叱られても納得してくれました。
- また、発達障がいのある、どのタイプの子どもにとっても、しつこく叱られるのは苦手な傾向がみられます。教師が感情的に叱ると、子どもの心が教師から離れていきます。「毅然とあっさり叱る」「頭ごなしに叱らない」「ついでにあれこれ叱らない」「皮肉、脅し、威嚇をしない」ことなどに心がけることが大切です。
- がんばった行動をほめる時には、「事実の確認と承認の非言語」が効果的です。例えば、いつもノートを開かない子が、たまたま自分から開くことができた時に、「すごい、自分から開いたね」とほめると、周りの子は「自分たちはいつも自分から開いているのに、なんであの子だけほめるの。」と不満に思います。その時は、その子に「自分でノート開いたね」と事実を認める言葉をかけ、すかさず、非言語でにっこりと微笑みます（又はOKサイン等）。他の子にとっては事実をただ言葉に出しているだけですが、本人には「先生が認めてくれた」と感じるができます。
- ほめ方にも工夫が必要です。「偉いね」「すごいね」「上手だね」等の言葉は、確かにほめてはいるものの、誰かと比べている、誰かより勝たなければならない等のイメージを与えてしまいがちです。反対に「先生は、うれしいよ」「先生は助かるよ」などというアイメッセージでほめると、「先生に感謝されている」とやる気になることが多いです。
- 教師は叱ることによって、子ども達が気持ちを奮い立たせることを期待しています。しかし、学級全体を叱れば叱るほど、子どもたちは「私たちの学級は、最低の学級だ」と思います。逆に学級全体をほめればほめるほど「この学級でよかった」と思うようになり、明るく暖かい学級になっていきます。教師が、子どもを信じ、子どもの言い分を聞き、責めないことを大切にした「好意に満ちた言葉がけ」を大事にしていると、やがて好意に満ちた学級に変わっていきます。



【講師 松久眞実先生】

### 参加者の感想

- 前回、松久先生の御講演を教職員全員で聞きました。松久先生のお話により全員が共感し、教職員が言葉を減らしたり、叱る基準を示したりするなどの取組を始めました。すると、子どもたちも落ち着いてきて、このことは確実に保護者にも伝わっています。本日、教えていただいた「叱り方・ほめ方の工夫」「肯定のアイメッセージ」も取り入れて、「好意に満ちた学校づくり」に努めていきます！

## ペアレントメンター(親の相談にのる先輩の親)から 先生方へのメッセージ

ペアレントメンターからの先生方へのメッセージをQ & A方式で紹介しますので、先生方が保護者と接する際の参考としてください！

### ペアレントメンターより先生方へ

私たちペアレントメンターは、障がいのある子どもをもつ先輩の親で、悩みをもつ親の相談に対し、その気持ちに寄り添い、共感し応援したりしています。

私たちから見て先生方は、どの先生も、意地悪な気持ちでの言動はしていないと思っています。ただ、日々お忙しい仕事の中、冷静な気持ちと余裕をもつことができず、先生の残念な言動を見たり聞いたりしてきました。そのことにより、一度受けた保護者の傷は想像以上に深いものです。

そのため、先生方には、「校内研修プログラム」で研修を積まれ、御自身の言動を振り返って、受ける側である保護者の気持ちに一層気を付けていただけると嬉しいです。

私たちペアレントメンターは、子どもや保護者のために勉強され、謙虚で誠意ある対応をしてくださる先生方を全力で応援していきます！

**Q 1** 先生が、保護者と接する時、保護者の立場から、「言ってほしくない言葉」や「してほしくない対応」があれば、教えてください。

#### A1

##### 【言ってほしくない言葉】

- 子どもの名前を呼び捨てにしないでほしいです。（「さん」付けにしてほしい。福祉の世界では、呼び捨ては禁止用語となっています。）
- 「ほかにも特別な対応が必要な子どもがいますので、あなたのお子さんにだけ、特別な対応をすることはできません。」という否定的な発言。
- 「◇◇君より大変な子どもがいます。だから心配ないでしょ。」という他の子と比べる発言。
- 子どもの発達を心配し、不安になっている保護者に対する「大丈夫です。」「普通ですよ。」など、根拠のない安易な発言。
- 「△△君はこうですから。」と診断名だけで決め付ける、「障害があるから。」とすぐに特別支援学級を勧める、「お子さんは普通学級にいるべきではない。」という発言。
- 不登校気味の子が勇気を出して登校した時、「なんだお前今頃来たのか。」という冷たい発言。

##### 【してほしくない対応】

- 対応が難しいと感じる子どもをすぐに特別支援学級に送り込もうとする。
- 毎日のように、先生が保護者に電話をしてきて、学校での出来事をガミガミと言う。
- 「授業中、お子さんは、ちゃんと前を向いて話を聞いているので、心配いりませんよ。」や、「何が問題なんですか。」と言われ、こちらから話をさせてくれない。

**Q 2 先生が、保護者に、個別の教育支援計画の作成や活用について同意を得ようとする場合、どんな姿勢で接するとよいでしょうか。**

## A2

- 卒業後、福祉の世界では、個別の支援計画は当たり前です。保護者の目線に立ち、教師として熱意をもって説明し、作成すること、活用することの同意を得てほしいです。
- 例えば、療育や学校教育等の記録を細かくとっている保護者も多いことから、「参考にさせていただいてよろしいですか。」という働きかけから、相談していくことも考えられます。
- 個別の教育支援計画は、例えば、20歳で請求する障害基礎年金の大切な情報となることも柔らかに説明し、大切な資料であることを伝えてほしいです。
- 個別の教育支援計画を活用することで、
  - ・将来にわたっての一貫した支援の見通しがもてる。
  - ・学年や校種が変わるたび、関係機関に相談に行くたびに、同じ説明を何度もしなくても済む。
  - ・学年や校種が変わっても、必要な支援が引き継がれていく。
  - ・支援者と一緒に子どもの成長を確認できる。などのメリットがあることを説明してほしいです。
- 「子どもにレッテルを貼ることではない。」、「将来不利になることはない。」、「情報が漏れることはないので安心してほしい。」ことを伝えてほしいです。

**Q 3 本校内研修プログラムを活用し、先生方が発達障がいのある子どもや、その可能性がある子どもへの指導や支援の在り方の研修を行っていく際、どんなことを期待しますか。**

## A3

- 知的障がいのある自閉症、知的障がいのない自閉症もあり、自閉症と言っても障がいの状態によって支援が必要なことは、山ほどあります。それなのに、一律に同じ方法で支援すると、子どもによってはパニックになってしまうことがあります。子どもをパニックにさせない支援が大切です。また、パニックになった子どもを悪者にしないでほしいです。

先生方には、事例を通して支援の手立てを検討し、振り返る研修を通して、様々なケースに対応できる力を身に付けてほしいです。
- 発達障がいの可能性があっても、必ずしも発達障がいとは限りません。この点は十分に注意してほしいです。また、発達支援センターの方や保護者、福祉・企業・医療の関係者を招き、研修を行うことも考えられます。
- 障がいの特性を理解する研修はもとより、「診断名ありきではない支援」や、「子どもの気持ちに寄り添う支援」、「保護者への支援」を考える研修を大切にしてほしいです。
- 事例検討やロールプレイ、心理的疑似体験などの研修をぜひ取り入れてほしいです。

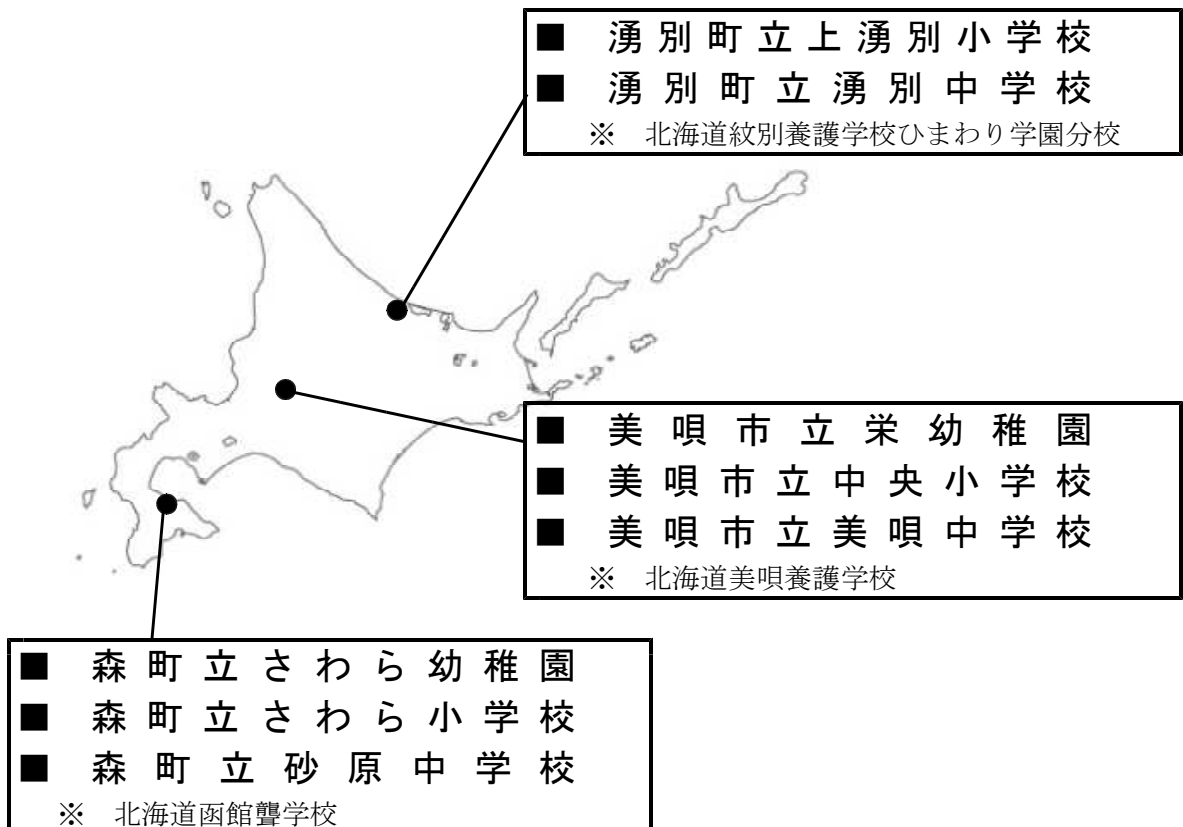
# 「校内研修プログラム」の作成への御協力

(敬称略)

## □ 講師

プール学院大学 准教授 松久 眞実

## □ 「発達障がい支援モデル事業」のモデル校 (※関係特別支援学校)



## ○ 情報提供校

初山別村立初山別小学校、根室市立北斗小学校、別海町立野付小学校

## ○ 発達障がい専門性向上ワーキンググループ委員

|                   |                 |    |        |
|-------------------|-----------------|----|--------|
| ・北海道国公立幼稚園長会      | 札幌市立きくすいもとまち幼稚園 | 園長 | 加藤 貴子  |
| ・北海道特別支援学級設置学校長協会 | 札幌市立小野幌小学校      | 校長 | 山田 宏司  |
| ・北海道特別支援学級設置学校長協会 | 札幌市立澄川中学校       | 校長 | 加藤 一郎  |
| ・特別支援学校長会         | 北海道真駒内養護学校      | 校長 | 福井 一之  |
| ・外部専門家            | 札幌大学            | 教授 | 高橋 裕   |
| ・親の会              | 北海道LD親の会連絡協議会   | 代表 | 長田じゅん子 |
| ・関係機関             | 北海道立特別支援教育センター  | 所長 | 木村 宣孝  |

発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための

## 校内研修プログラム

～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～

平成２７年３月発行

編集・発行 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課  
札幌市中央区北３条西７丁目